

佐賀大学学内研究プロジェクト

(学長裁量経費－特定教育研究推進経費－研究プロジェクト経費)

**「地域間交流分析に基づく佐賀地域の歴史文化研究
—地域学の発展に向けて— (略称:「交流」プロジェクト、代表
者:伊藤昭弘)」 平成26年度報告書**

佐賀大学地域学歴史文化研究センター

目 次

プロジェクトの趣旨	1
研究進捗状況	2
出張報告	6
公開研究会	9
佐賀新聞 海外・地域間交流関係記事抄録 大正元～3年	10
「蓮池藩請役所日記」医学・軍事・洋学・教育関係記事目録	29

プロジェクトの趣旨

地域学歴史文化研究センターでは、学内研究プロジェクト「佐賀学創成のための総合的研究」(20～22年度)「地域学創出のための医文理融合型研究」(23～25年度)を実施し、論集刊行など成果をあげた。そして両プロジェクトの成果をもとに、今後佐賀を研究フィールドとした地域学を推進するに際し、「地域間交流」をキーワードにすることが有効であるとの結論に至った。

肥前佐賀地域は、吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代以来、常に中国大陆・朝鮮半島との交渉を持ち、16世紀以降は西洋の影響も大きく受けている。こうした海外の諸地域との交流の活発さという点で、当地域は日本の他地域と比較して独自の性格を有しているのである。まずはこうした日本列島の外の地域と肥前佐賀地域との交流の実態について究明し、さらにそれが佐賀地域の特色形成にどう影響したのか、考古学・文献史学・文学・理化学・医学のさまざまな手法を用いて検討する。

○メンバー (50音順)

青木歳幸 (センター特命教授)
伊香賀隆 (本プロジェクト特別研究員)
伊藤昭弘 (代表者、センター)
井上敏幸 (佐賀大学名誉教授、センター特命教授)
大塚俊司 (センター)
鬼嶋 淳 (文化教育学部、センター併任)
重藤輝行 (文化教育学部、センター併任)
中尾友香梨 (文化教育学部、センター併任)
半田 駿 (センター特命教授)
三ツ松誠 (センター)
宮島敦子 (文化教育学部、センター長)
宮武正登 (全学教育機構、センター併任)
山崎 功 (文化教育学部)
山本長次 (経済学部、センター併任)

研究進捗状況（50音順）

○青木 歳幸

①佐賀藩における医学の実態をより詳しく解明するため、「蓮池藩請役所日記」の医学関係史料記事の抽出作業をアルバイトの協力を得てすすめた。宝暦12年までに250件、安永2年126件、安永6年・7年で96件の医学・軍事関係記事を目録化した。安永2年7月には6代藩主鍋島直寛が「御不快」のため、長崎から今井立松なる医師を呼んでいることなど、安永2年7月26日に亡くなった直寛への治療状況がよくわかる。次年度はさらに年代を降っての継続調査をすすめる。

②江戸時代佐賀の民間社会における医学交流の実態を明らかにするため、佐賀藩薬種商であった野中家書籍調査をすすめた。江戸時代築の土蔵のなかに100箱ほど埃まみれに積まれていたなかに所蔵されていた書籍類に、1点ずつ番号をつけていく作業を井上敏幸先生らとともに続けた。『解体新書』図版のほか、『本草綱目』の寛文年間や正徳年間伝来本、吉宗の愛用した朝鮮伝来医薬書『東医宝鑑』など、貴重本が見いだされた。次年度は、これらの書籍を分類し目録づくりをするとともに和歌・古文書調査にも着手する。

③佐賀藩出身蘭方医伊東玄朴について佐賀偉人伝シリーズ『伊東玄朴』（佐賀城本丸歴史館）を刊行し、佐賀藩の医学史概要および佐賀藩の種痘実施状況を、『西南諸藩医学教育の研究』（科研費（c）「佐賀藩・中津藩・長州藩を軸とした西南諸藩医学教育の研究」）報告書にまとめた。佐賀藩が導入した西洋医学の全国的伝播状況を検討するため、札幌医学病院の初代院長で佐賀藩出身蘭方医渋谷良次（良耳）の調査を北海道立文書館（札幌市）において実施した。

○伊香賀 隆

現在、佐賀における中国思想（儒学を中心として）受容史を、思想方面から解明すべく準備・研究を進めている。本年度は、古賀精里・穀堂父子に関する資料及び先行研究を収集・整理した。また、『古賀穀堂』（生馬寛信著、佐賀偉人伝15、佐賀本丸歴史館、2015年3月刊行）執筆に協力し、主に漢文資料「古賀穀堂先生墓碑（古賀侗庵撰文）」「明善堂記」「弘興道館諸君書」「自警文」の解読・現代語訳作成を行った。今後は、収集した先行研究の分析、漢文資料の解読をさらに進めていくつもりである。

さらに上と並行して、井上敏幸センター特命教授とともに黄檗寺院普明寺（鹿島市）関連資料の解読を進めている。本年度は、「圓福山普明禅寺創建事由略記」「断橋和尚年譜」の解読を行ったが、引き続き「桂巖和尚行状」「月岑和尚行状」「鹿島小志」「直朝公」等の解読を進め、来年度末（平成28年3月）に『普明寺史（仮）』を刊行することを目標としている。

○伊藤 昭弘

①幕末の佐賀藩藩政改革の実態を明らかにするため、天保12年の藩政記録「請御意御聞届諸役相達」（鍋島報効会所蔵『鍋島家文庫』）の分析を行った。

②佐賀藩の長崎警備の実態を明らかにするため、以下の資料を翻刻した（いずれも『鍋島

家文庫』、地域学歴史文化研究センターウェブサイトにて公開予定)。

寛文13年「エケレス船来着之時日記」

天保15年「阿蘭陀使節船渡来」

弘化3年「フランス使節船渡来」

○井上 敏幸

鹿島藩の黄檗寺院である普明寺に伝来している黄檗関係書籍の史料集を27年度に刊行するため、書籍の解説や読み下し作業をすすめたほか、浜松市や京都市において、関係史料調査を実施予定である。また佐賀藩薬種商野中家の典籍類を調査し、江戸時代佐賀の文化移入や中国・朝鮮医学の導入状況を知るための基礎資料収集をすすめている。

○大塚 俊司

戦国期肥前のキリスト教受容を分析するため、キリスト教関連史料の日本語訳刊本をもとに、肥前国の諸領主に関する記事の収集作業を進めた。また、国内史料についても同様に、関連記事を収集した。

○鬼嶋 淳

①戦後佐賀県への引揚・復員状況を把握するため、『佐賀新聞』（1945年8月～1946年）から「引揚」「復員」「戦災」関係の記事を抽出し、個々の事例を蓄積した。昨年度まで検討してきた有明干拓事業への関わりについての事例も含まれており、この点での研究の継続が期待できる。

②ゴードン・W・プランゲ文庫に含まれる佐賀県関係の新聞・雑誌から、佐賀県引揚者戦災者更生会の機関誌を収集した。この史料から引揚者・戦災者の敗戦直後の困難な生活状況を伺うことができる。さらに行政との交渉、要求闘争などについての記述もあり、『佐賀新聞』の記事と比較検討することで、引揚者・戦災者をめぐる地域状況を概観できる。

③「地域間交流分析に基づく佐賀地域」の近現代史を検討する前提として、引揚等の具体的課題とともに、近現代佐賀地域の人口や産業構造の変化といったマクロ的視点が必要である。その観点からデータの収集につとめた。

○重藤 輝行

古墳時代に古墳に採用された横穴式石室の出現時の朝鮮半島からの技術、埋葬方法の伝来の具体的な経路等を、佐賀県を中心とした九州北部の事例において検討した。また、横穴式石室出現以降にみる朝鮮半島から伝播した要素等を抽出し、整理した。

○中尾 友香梨

平成26年度には主に文献調査を行い、佐賀藩・鹿島藩・小城藩の鍋島家と中央の林家及びその他の文人・学者たち、中国渡来の学僧、朝鮮通信使との人的・文化的交流を解明するための基礎資料を蒐集した。中でも特に鹿島藩の第四代藩主鍋島直條に関する資料を多く集め、直條と林家一門の交流に注目した。平成27年度には引き続き資料の調査と整理を進めながら、これまで蒐集した資料を丹念に読み、さまざまな角度から具体的な分析を

加えることによって、鹿島藩の鍋島直條を中心に、佐賀藩の世子であった鍋島光茂、小城藩の第二代藩主鍋島直能と中央の林門の学者たち、中国の渡来僧東臯心越、朝鮮通信使との間でくり広げられた文化的交流について、ある程度解明できることを目指す。

○半田 駿

過去に実施した佐賀藩岩田台場のレーダー探査データの分析を進めた。

○三ツ松 誠

「神道とキリスト教の邂逅—佐賀国学研究の一視点—」という課題を立てて、キリスト教思想と出会った佐賀の国学者の知的営為に見る日本思想と西洋思想の思想的交流を研究対象とした。具体的にはまず、佐賀藩の和学寮に勤め、漢籍のキリスト教教理書を導入した国学思想を展開した南里有隣に関する研究動向を整理した。本研究プロジェクトの第一回研究会で「南里有隣研究の回顧と展望」と題してその成果を報告した後、『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』第九号に同名の研究ノートを掲載した。また、キリスト教の流入に対抗し、富士講の流れを汲む教派神道の一派実行教を発展させていくことになる小城藩の国学者柴田花守に関して史料を収集した。こうした作業を通じて、今後の研究の基礎を固めた。

○宮島 敦子

平成 26 年 12 月 12 日の「岩波講座 日本経済の歴史」研究会で「中世後期の鉛と焰硝の流通」を報告した。ここでは、戦国期日本国内で製品化（使用）された鉛は、その半分がタイ産のものであることが、最近の研究で明らかにされた。それがポルトガル船によって（宣教師が仲介する）日本国内に持ち込まれ、販売されたのである。私の研究は、以上のことを前提として、国内での流通状況を検証するものである。戦国大名の後北条氏・武田氏・竜造寺氏・大友氏・毛利氏の史料を網羅的に収集し、鉛と焰硝（鉄砲玉）の自領内での製造消費状況、を明らかにした。

○宮武 正登

室町期における日朝交流の展開を理解するためには九州探題の政治的関与に注目する必要があるが、その探題渋川氏の居所（兼肥前守護所）は現在の佐賀県三養基郡「綾部」に所在した。今回、同所の地政学的検証を行った結果、筑後川水域の河川交通の要衝である倉戸（蔵津）の掌握と筑前姪浜での守護領設定により、有明海・玄界灘の両海域の停泊地を直接把握し、両者を繋ぐ陸上インフラ（筑前筑紫郡那珂川～背振山系七曲峠～肥前三根郡中原）沿いに重要支城を置いて、そのちょうど中間地点に綾部城を築き本拠としていた事が解明できたので論文化した。

今年度の研究を通じて、西九州沿岸の中世港湾地の個別分析と同時に俯瞰的作業を並行する事により、内陸部の政治経済的要件との相関を鮮明にできる点が確認できたが、同じ視座から、『海東諸国紀』等の朝鮮側史料上に外交事績を残す千葉氏、多久氏、少弐氏ら内陸部に拠点を有する勢力体と、沿岸部港湾地との具体的な連携形態についても再点検すべき余地が多いものと予測できる。

○山崎 功

佐賀・九州と国内外地域の交流を、アジア主義の視点から検討するための史料・図書を収集した。特に、アジア史、国際関係の大きな枠組みをふまえつつ、①明治以降の日本の南洋・アジア関与をめぐる問題、②移民問題・社会文化状況と郷土・国民意識、③郷土史・日本史・国民教育における実在・伝説上の人物等の位置づけの変遷などに着目、郷土史と地域振興、ナショナリズムとの関わりでの資史料調査をすすめている。①、②については副島八十六、田中丸善蔵など郷土ゆかりの人物をめぐる資史料調査、③についてはこれまでの成果を踏まえ、山田長政、ハリマオ、桃太郎などをめぐる教育と郷土史、歴史的立場の変遷についての資史料調査を引き続きすすめている。また、日本と蘭印（インドネシア）の関係に注目し、科研調査と連関して本企画を相互に補完・効果的に実施するため、インドネシアをはじめ海外の関連研究者との意見交換を進めている。「佐賀大学美術館企画展 日本とアジア「交易の時代」」情報提供・佐賀大学美術館企画展パネルおよび報告書作成協力はその成果の一部である。（26年7月25日～8月24日）

○山本 長次

佐賀県出身、あるいは佐賀県に関係する企業家の経営や、彼らの国際関係にかかわる歴史研究の一環として、森永製菓を設立した森永太郎の調査研究を中心に実施してきている。本年度は、佐賀県立博物館の企画として、平成26年8月2日に開催された森永太郎展におけるシンポジウム「食のフォーラム」でコーディネーターをつとめたほか、平成27年2月28日から3月7日にかけて、サンフランシスコ、オークランド、アラメダなど、カリフォルニア州において、森永の滞在先の調査を進める中でも研究を進展させた。

「交流」プロジェクト出張（調査、研究会参加等）報告（50音順）

○青木 歳幸

2015年1月27日から29日にかけて、北海道立文書館（札幌市）において佐賀藩出身医師渋谷良次の調査にでかけた。渋谷良耳は、『医業免札姓名簿』（佐賀県医療センター好生館蔵）に「寅十月、内外科 渋谷良耳、大石良英門人 安房殿家来 式拾七才」とあり、文政11年（1828）生まれと推定できる。良耳は、嘉永元年（1849）5月に大坂の緒方洪庵に学んだあと、好生館指南役になり、安政4年（1857）からは、ポンペに学んだ。明治5年7月に札幌病院の設立のために赴任した。渋谷良次の札幌での病院設立とその教育実践、その理念における佐賀藩医学医教育との関連をさぐるために、北海道立文書館にて調査を行った。渋谷良次の履歴書や医学校記録など関連文書を10数点見だし、写真撮影を行った。これらから判明したことの一部を述べると、良次が病院設立にあたり、寄宿舎学生寮の建設をとくに主張したのは、佐賀藩医学寮や好生館も寄宿舎方式であり、渋谷良次にとって、佐賀藩での経験が、医学教育推進に効果あると考えたからとみられる。この学生寮は、良次の強い要求で直接の上司の独断で設立されたが、東京の政府から独断専行であるとして上司は糾弾され、良次も明治6年10月3日付けで免官となった。今後は収集した資料をもとに、札幌と佐賀の医学交流調査を続ける予定である。

○伊香賀 隆

平成27年3月10～13日の4日間、東京・浜松において古賀精里関係資料の調査および黄檗僧独湛関係史料の調査を行った。【3月10日】大塚先儒墓地：古賀家（古賀精里・侗庵・茶溪他）、尾藤二洲、柴野栗山、岡田寒泉、室鳩巢等の墓碑調査／東洋大学附属図書館：近世後期朱子学研究に関する資料の複写。【3月11日】内閣文庫：『精里全書』『極論時事封事』『大学章句纂积』『中庸章句纂积』『中庸諸説辨誤全』『近思録集説』『十事解』『穀堂遺稿抄』等の撮影。【3月12・13日】浜松市中央図書館：井上敏幸センター特命教授の調査に助手として同行し、黄檗僧独湛関係史料の調査および撮影・複写等を行った。

○井上 敏幸

浜松市中央図書館において黄檗僧独湛関係史料の調査を行った。詳細は以下の通り。

1) デジタルカメラ撮影

道者元五字一行	一軸
道者元七絶一首	一軸
黄檗諸禅師遺墨	一卷
独湛自画讃	一軸
独湛像	一軸
独湛画讃無量寿仏	一軸
独湛像	一軸
独湛偈	一軸
独湛偈	一軸

独湛偈 一軸
独湛偈四行書 一軸
独湛墨跡卷子
伊藤白蓮 和歌短冊 一軸
独湛 五行書 一軸
宮崎白蓮 和歌短冊
近藤家印譜集

2) コピー複写

初山励賢録 独湛編
黄檗派東渡諸禪師小伝 范道生著
黄檗四代独湛禪師行録写
浜松の大雄庵 1冊 内田旭著 昭和17
雨夜のすさみ草 近藤徳用著
百花園俳諧茶式 一枚摺(複写)

○鬼嶋 淳

①福島出張

福島市コラッセふくしまにて、「福島フォーラム 歴史から見つめ直す「生存」の場」に参加。「文化財保存がつなぐ地域の歴史」に関する阿部浩一氏「福島歴史資料保存ネットワークの活動」、吉野高光氏「双葉町の文化財保存」の両報告は、プロジェクトの「地域学の発展」を考える前提（歴史資料の保存等）として重要であった。また、高岡裕之氏による「福島の人口移動の歴史」報告は、人口や産業構造の変化といったマクロ的分析を通じて、近現代の地域社会のあり方を考える前提を示した点で、本プロジェクトの「地域間交流」を近現代で考える際、重要な視点であることを再認識させるものであった。

②東京出張

国立国会図書館等で、プランゲ文庫に含まれる佐賀県内で刊行された雑誌類の調査を行い、戦後佐賀県に関する引揚・復員に関する史料を収集した。さらに、近現代の佐賀・九州地域の特徴をマクロ的に捉えるため、人口や産業構造の変化に関するデータの収集を行った。

○宮島 敦子

研究会での報告は、2日間にわたったが、第一日目の近世の報告において、近世の農村金融と都市・大名金融の2つの報告があった。なかでも後者では、「大名金融市場の展開」（高槻泰郎）と題しての報告は、今回のプロジェクト研究との関係が深いものであった。すなわち、17世紀段階の大坂米市場の成立前史に関して、ポルトガル船来航禁止による鎖国体制完成後も、オランダ船への米の輸出が行われていたことを（出島からオランダの対日貿易拠点であった台湾へ盛んに輸出）、明らかにした。これは主に肥後の細川氏を事例として立証したものであるが、中世近世移行期の海外交流を考えるうえで、重要なキーワードとなるものである。

○宮武 正登

玄界灘沿岸の中世港湾の実態分析を進めるに当たって、同じ地勢（リアス式海岸）に多数の対外交易拠点が分布し、なおかつ地元自治体や民間研究機関による内容調査の実績を伴う鹿児島県薩南地方の港湾遺跡を参考事例として、過去の調査成果と方法論に係るデータを得るべく枕崎市と南九州市での調査を実施した（2015年12月19日～22日）。

枕崎市では、戦国末期に旧枕崎港一帯を支配した喜入氏の本拠地「鹿籠」に残る同氏の居館や墓所、付随集落内の「船溜り」跡等を調査し、港湾集落における領主拠点と停泊施設との編成パターンを探った。南九州市では教育委員会の協力を得て、同市立博物館が保管する竹迫交易場遺跡出土遺物や「門の浦」海商家伝世史料を調査するとともに、同館が進める中近世繫留地（東塩屋沖海底遺跡）の確認調査にも参加した。当該地域は琉球や明・清との貿易中継地として知られるが、海際採石場からの石材積出港や肥料商人等の荷揚地といった総合的な物流拠点としての側面が解明されつつある。小規模な入江の集合体として多様なニーズを果たす港湾のあり方についても、肥前地方沿岸部の様相との共通性が指摘でき、その形態的特徴の比較対象として最も重要な地域である事が再確認できた。

○山崎 功

進捗状況で示した①明治以降の日本の南洋・アジア関与をめぐる問題、②移民問題・社会文化状況と郷土・国民意識、③郷土史・日本史・国民教育における人物の位置づけの変遷、などに着目、郷土史と地域振興、ナショナリズムとの関わりでの資史料調査を各地において実施した。また日本と蘭印（インドネシア）の関係に注目し、科研調査と連関して本企画を相互に補完・効果的に実施するため、関係研究者との意見交換を進めている。

○山本 長次

平成27年2月28日から3月7日にかけて、森永太郎の渡米にかかわる研究を主たる目的として、カリフォルニア州のサンフランシスコ、オークランド、アラメダなどの現地調査及び資料収集を行った。さらに、サンフランシスコ、スタンフォード、ストックトン、サンノゼにおいて、佐賀県からの事例を含めた、日本からの移住や留学等にかかわる歴史的調査及び資料収集も併せて行った。

「交流」プロジェクト 2014年度公開研究会 要旨

第1回公開研究会 平成27年1月21日（水） 於佐賀大学附属図書館グループ学習室1

報告 三ツ松誠（地域学歴史文化研究センター）「南里有鄰研究の回顧と展望」

南里有隣（1812～1864）は、佐賀藩士にして独自の神道思想を発展させた国学者として、時に日本思想史学の創始者とも目される村岡典嗣の研究によって知られるようになった。佐賀地域においても高い知名度を誇るわけではないものの、西洋と日本の思想的交流を考える上では極めて興味深いこの人物について、これまでの研究状況を整理し、今後の研究発展の可能性を考えるのが、この報告の課題である。彼は村岡典嗣の研究以来、平田篤胤の影響を受けて、中国語のキリスト教教理書を利用して独自の神道神学を編み出したことで知られてる。だが戦時下の諸研究は、こうした外来思想の影響を無視して彼を地域の国学者として称揚する一方、戦後になると彼の研究が乏しい時代が続くことになる。しかし近年は、前田勉らによって史料に即した彼の神道思想の再検討が進められるとともに、地域文人としての彼の活動についても研究の進展が期待される状況にある。

佐賀新聞 海外・地域間交流関係記事抄録

大正元～3年

佐賀近代史研究会編『佐賀近代史年表』大正元年～2年、大正3年(地域学歴史文化研究センター、2014、2015)から、海外交流(佐賀と海外)・地域間(佐賀と他県・地域)の交流に関する記事を抄録した。作業は伊香賀隆(本プロジェクト特別研究員)が担当した。

大正元年<1912> 8月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
8	○	東松浦郡漁業組合は福岡県との沖合漁業侵害の件で、組合理事協議会を8日に開催の予定	8・4<2>
8	○	海外実業練習生として西松浦郡陶磁器同業組合から鶴田勝次が採用される	8・4,9・3<2>
8	○	藤津郡鹿島の森田判助、塩田の諸方久吉、吉田の野田卯八の3人は、陶土会社の設立を計画。陶土を天草から買い入れ、塩田で水車により製粉して、有田などへ販売する計画	8・11<2>
8	○	大分県で開催の農商務省主催公有林野講習会に林業技手小野禎ら15人が出席	8・22<2>
8	23	玄界灘の福岡県小呂島沖合の漁場紛争について、佐賀、福岡両県入漁協議会を唐津町で開催。27日まで連日交渉。姫島と小呂島見通し以西は共同漁場とすることに合意。協定書を掲載	8・23,28,29<2>
8	○	東松浦郡満島村漁業組合に、福岡県鹿家～芥屋沖の入漁登録証を下付	8・31<2>
社会			
8	8	朝鮮海出漁の際、朝鮮の平安北道で遭難した小城郡芦刈村の漁民3人の共同葬儀が、同村の鎮海庵で行われる	8・2,7,10<3>
教育・文化			
8	○	第三高等学校に大田義彦ら3人、第五高等学校に野田一誠ら23人、第六高等学校に黒川鷹揚が入学を許可される	8・2<2>
8	○	岡山医学専門学校に大田五助、納富保廣が入学	8・2<2>
8	○	千葉医学専門学校に真崎健夫、大坪五也、北島岩夫が入学	8・3<2>
8	○	第一高等学校に松本光麿、有間茂ら6人が入学	8・6<2>
8	○	南極探検隊後援会の三井所清造は、神埼郡神埼町に帰郷中	8・9<2>
8	20	台湾総督府医院院長中島駒次郎は休職(官報)	8・23<2>

大正元年<1912> 9月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
9	○	東松浦郡唐津町郭内の夏季貸席松濱院は、長崎県の崎戸島炭坑に売却され解体される	9・1<2>
9	○	佐賀郡中川副村の森永元太郎一家は、朝鮮全羅南道榮山口に移住、鰻漁が	9・5<2>
9	○	西松浦郡役所は陶磁器組合に対して、陶磁器業発展策を諮問。組合は、朝鮮・満州・南洋に視察員の派遣、錦窯に石炭応用、工業試験所の設置などを	9・13<2>
9	○	東松浦郡唐津町の長谷川敬一郎はマニラ麻の麻継業を始める	9・16<2>
9	○	農商銀行が杵島郡小田村に20日から開業予定(広告)。京都府の衣久野銀行の営業権を引き受ける	9・18,19<2>
9	○	藤津郡西嬉野村湯田で、大阪の若本亀之進らは、大規模の温泉場を工事中	9・26<3>
その他			
9	○	九州各県の朝鮮出漁の奨励金を掲載、佐賀は移住村奨励など7600円	9・2<2>
9	○	熊本医学専門学校に前田新作、山崎彦雄ら6人が入学	9・7<2>
9	○	九州帝国大学工科大学に鈴木貞俊、張玄彦、山領秀雄、山川良一が入学	9・13<2>
9	○	伊万里出身の藤山雷太は、欧州の甜菜工場を視察中	9・22<1>
9	○	第五高等学校の特待生に、第3部七田龍雄が選ばれる	9・19<官報>、9・22<2>

大正元年<1912> 10月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			

10	10	九州各市長会を佐賀市で開催、佐賀市提出の議題は孝子節婦の褒章など5	10・11,12,13<2>
10	○	県産の清酒の県外への移出入は、移出は1万2923石、うち長崎県へ1万1石。移入は4334石、うち福岡県から3396石など	10・2<2>
10	15	九州7県清酒品評会で、佐賀から優等1、1等10、2等18、3等13点が入賞。優等は藤津郡の水頭碧の「祐徳」、1等は佐賀郡の古賀文一郎の「窓の梅」など	10・16,17<2>
10	31	深川造船所が購入の大西丸が唐津港に入港、深川家は佐賀駅から貸切列車を仕立て西唐津港で初航の祝宴を開く。英国で建造、3680t・積載量4700t	11・2<2>
社会			
10	○	米国のサンフランシスコ県人会は、救恤資金として218円を県に寄付	10・1<2>
10	○	東松浦郡唐津町の西海新聞は、京都の桃山御陵参拝団を募集、定員200人に300人が応募、費用10円	10・6<2>
教育・文化			
10	2	県師範学校長川島庄一郎は奈良県同に転任、後任は沖縄県同森山辰之助を任命(官報)	10・4<2>
10	○	この月、各学校は修学旅行を実施。佐賀市高等小学校は波佐見金山を見学な	10・17,19,24<2>
その他			
10	○	中国のハルビンの県出身者は50人。日本人は931、うち男374、女515人	10・20 <3>
10	24	佐賀鍋島家の直映は、経営する農場視察のため韓釜連絡船で朝鮮に渡航	10・25 <3>
10	○	京都の桃山御陵の学生団の参詣者はあとを絶たず、国鉄の列車輸送は繁忙が続く。佐賀商業学校も予定	10・28<2>

大正元年<1912> 11月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
11	23	捕鯨船第1大東丸が呼子港に入港、砲手はノルウェー人オーラツ、小川島捕鯨会社との契約	11・25<3>
社会			
11	27	南極探検活動写真を佐賀市の改良座で上映。期間3日間、連日連夜大入り満	11・27,28<3>
11	20	佐賀区裁判所兼佐賀地方裁判所判事に小倉区裁判所判事矢迫秀麿を任命(叙任・辞令)	11・22<官報> >.23<2>
教育・文化			
11	24	藤津郡吉田村出身の川上曹源・インドカルカッタ大学教授が「日本とインドの関係」について講演、会場は佐賀市の宗龍寺	11・25<2>
その他			
11	○	10月中の海外渡航者は、ウラジオストック男6、女3など14人	11・1 <3>
11	○	朝鮮の婚姻奇習 4回	11・1,4,5,6<3>
11	○	「佐賀商業学校朝鮮旅行記」 7回	11・ 2,5,6,9,10,11,1 3<2,3>
11	○	京都帝国大学医科大学を村岡忠夫が卒業	11・18<2>
11	○	長崎医学専門学校医学科を今六義胤ら9人、薬学科を松尾彦太郎ら4人が卒	11・18<2>

大正元年<1912> 12月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
12	30	県事務官高橋守雄は石川県警察部長に転任、後任に試補松村義一を任命、高等官7等(官報)	2・1・4<官報> >,1・1・6<2>
経済			
12	10	小川島捕鯨会社はナガスクジラ1頭を捕獲。44年から高知県の大東捕鯨会社と契約し、ノルウェー式捕鯨を行う	12・12<3>
12	16	有明海漁業事件のため、福岡県の大島事務官が県庁を訪問	12・17<2>
12	19	小城郡東多久村果樹会は、福岡県の園芸家阿部熊之助を招き、ビワ栽培の講話会を開催。阿部は農家の副業として推奨。同村納所はビワの名産地	12・19<2>
12	24	大川汽船(株)所有の佐賀丸678tが長崎県の平戸瀬戸で座礁沈没。積荷はセメントと鉄道枕木	12・27<3>
教育・文化			

12	○	鹿島中学校教諭直海一郎は富山県に転出	12・28<2>
その他			
12	2	日本女子美術学校在学中の神埼郡蓮池村出身の江島ミトセは、菓子食中毒により死亡。秀才の誉れ高し	12・7,8,10 <3>

大正2年<1913> 1月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
1	○	深川汽船部は積極的に外国の2千トン級の大型船を購入し、規模の拡大を行う。所属船は15隻、2万トンに達する。大東丸、大南丸、神佑丸、三角丸、大北丸など。航路は長崎五島、鹿児島、種子島、屋久島、東京、阪神など	1・12<2>
1	○	佐賀郡新北村の漁民62人のゲンシキ網漁の熊本県出漁は、古来よりの慣習により許可される	1・18<2>
1	27	佐賀、福岡両県は筑後川下流有明海における福岡県側による竹羽瀬、貝類養殖漁業の越境紛争解決のため、佐賀県庁で協議会を開く。交渉が難航し29日に協定が締結。協定書を掲載	1・28,29,31<2>
教育・文化			
1	○	佐賀郡視学古泉定吉は熊本県宇土郡網田尋常高等小学校訓導兼校長に転	1・8<2>
1	○	佐賀中学校教諭に長崎県対馬中学校教諭土屋八太郎を任命	1・9<2>
1	○	奈良女子高等師範学校生徒募集に渋谷シノ女を推薦	1・19<2>
その他			
1	17	台湾巡查福山猶助の町葬を出身地の杵島郡武雄町で行う。台湾新竹で作戦中戦死	1・19<3>
1	○	三重県宇治山田市長に元県庁庶務課長福地由廉を選任	1・21<2>
1	○	元南極探検隊衛生部長三井所清造が出身地の神埼郡神埼町に帰郷中	1・29<3>

大正2年<1913> 2月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
2	25	佐賀地方裁判所判事に後藤一徳・熊本県御船区裁判所判事を任命(叙任・辞令)	2・26<官報>,27<2>
経済			
2	○	有明海の竹羽瀬漁業の佐賀、福岡両県間の免許問題で、佐賀県海域の免許は佐賀県が行うことに決定	2・1<2>
2	○	深川汽船の航路はシンガポール、大連、品川、横浜、大阪、広島、五島、種子島・屋久島など。船舶は16隻(広告)	2・4<2>
2	○	深川汽船は英国船の買い入れ契約をする。5、6千トン級	2・5,6<2>
2	○	この頃、九州の米穀取引所は博多、佐賀、長崎、熊本の4カ所。佐賀は元年11月から取引停止。熊本に統合の動き有り	2・6<2>
2	○	伊万里湾産のノリは東京市場で好評を博す	2・6<2>
2	20	肥前電気軌道が米国に発注したレール3505本が長崎港に到着	2・20<3>
社会			
2	4	英国船カンタベリー号・4500tが玄界灘の加唐水道で座礁沈没	2・6<2>
その他			
2	○	大分県立病院産婦人科医師大塚俊之は、ドイツに留学を命じられる。杵島郡錦江村出身	2・9,10<1,2>
2	13	中華民国の孫文が長崎から東京への上京の途中、佐賀駅を通過。車中談を掲	2・14,16<1,2>

大正2年<1913> 3月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
3	○	藤津郡内の陶磁器は従来の朝鮮、内地向けに加えて満州、北清向けに注文が増える	3・1<2>
3	○	藤津郡陶磁器同業組合の職工養成所は、徒弟10人、型抜きで朝鮮向け便器、第2工場は満州向けの奈良茶碗を製造	3・3<官報>,3<2>
3	○	京都の高島屋は佐賀市の松川屋で呉服の出張販売をする予定(広告)	3・7<3,4>

3	○	県朝鮮海出漁組合が提訴した朝鮮海漁獲物賠償訴訟は、京城覆審院で敗訴の判決	3・13<2>
教育・文化			
3	○	小城中学校教諭に香川県丸亀中学校教諭高橋勝三を任命、佐賀高等女学校助教諭心得高橋ウタに月俸33円を給与など	3・7<2>
その他			
3	○	東京女子高等師範学校に田中ヒデが合格。私立成美高等女学校卒	3・9<2>
3	○	官立東京盲人師範学校は伊藤磯右衛門に入学の許可、公費生	3・10<2>
3	16	長崎高等商業学校を森永作平、森永卓次郎ら15人が卒業	3・25<3>
3	17	神戸高等商業学校を松本褒一が卒業	3・24<2>
3	○	石丸源六は長崎市で私立済美学校の設立を計画。佐賀郡本庄村出身	3・18<2>
3	○	「朝鮮羅州通信」 羅州生 同州における東洋拓殖会社による佐賀県移民の氏名を掲載、32戸▽	3・19,20<2>
3	○	明治専門学校を採鉱科古川米六など5人が卒業	3・25<3>
3	○	山口高等商業学校を石橋五郎が卒業	3・28<2>
3	○	東北帝国大学工学専門部採鉱冶金科を中島寛が卒業	3・29<2>

大正2年<1913> 4月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
4	○	県職員の仕事異動と増俸 県立病院好生館副館長臼井鉄治は年俸2800円、技手矢羽田徳治は熊本大林区所に転任など	4・1<2>
4	24	佐賀地方裁判長山本錚之助を大審院判事に、後任には長崎控訴院部長西野文市を任命。佐賀地方裁判所検事正に大津地方裁判所検事正稲澤庄次郎を任命(叙任・辞令)	4・25<官報>,26,30<2>
経済			
4	○	県朝鮮水産組合長に副組合長大原正太郎が就任	4・12<2>
4	18	佐賀商業会議所は臨時総会を開催し、特別議員制度を創設。県内務部長ら5人を選任。アメリカの排日運動に対して阻止運動に声援を送る	4・20<2>
4	18	深川造船所は、朝鮮総督府仁川出張所から受注した浚漉船江華丸819tを修理し試運転を行う	4・20<2>
4	○	佐賀郡久保田村の窓の梅は清酒を明治44年から朝鮮、中国に輸出。1100石に達す	4・19<2>
4	○	古賀銀行柳川支店が新築落成、27日に披露の宴を柳川の高畑公園で催す予	4・21<2>
4	22	農商務省はドイツ鯉100匹を県水産試験場に配布	4・23<3>
4	○	県農事講習所長和田勝一は長野県に転任	4・22<2>
4	28	郡農会長会議を開く。協議事項は部落実行組合の設立、韓国移民など8件	4・29<3>
教育・文化			
4	○	福岡県の炭鉱主貝島家は貝島栄三郎の死去の供養に、東松浦郡厳木村の厳木小学校に100円、簗木小学校に150円を寄付	4・6<2>
4	9	鹿島中学校教諭に福井県師範学校教諭中木福太郎を任命(叙任・辞令)	4・11<官報>,12<2>
4	○	佐賀市の上妻流洋裁興趣書生徒約50人は博多西公園まで汽車で遠足	4・19<2>
その他			
4	○	神戸高等商業学校に鶴田敏、佐藤忠六が入学	4・1<2>
4	5	埼玉県立熊谷中学校長千住武次郎は同県立柏壁中学校長に転任(叙任・辞)	4・7<官報>
4	○	広島高等師範学校英語部を高取映一、奈良女子高等師範学校を安藤ハツキら3人が卒業。東京蚕業講習所に倉富キヨが入学など	4・5<2>
4	○	東京高等師範学校を松浦繁太郎、西村忠雄、木塚長次郎が卒業	4・6<2>
4	○	山口高等商業学校に原實、横山辰次ら5人が入学許可となる	4・8<2>
4	○	東京美術学校に水町和三郎、山崎善次郎、澗公三ら4人が入学	4・11<2>
4	○	日韓併合記念章の県関係の受領者は20人	4・13<2>
4	○	広島高等師範学校に津田芳雄、中山勝一が入学許可となる	4・15<2>
4	○	神宮皇學館に紀伊義城が入学許可となる	4・15<2>
4	○	大阪高等工業学校に宮島甲子郎、池田政之助、黒髪正が入学。宮島は醸造	4・21<2>

大正2年<1913> 5月

月	日	記事	掲載月日<面>
---	---	----	---------

経済			
5	○	前田熊本大林区署長は、明治39年頃から被害発生東松浦郡の杉・桧類の針葉樹の枯木400町歩の原因は、野鼠の食害と指摘し、駆除を行う	5・10<2>
5	31	佐賀、福岡など4県連合アゲマキ研究会を福岡県沖端村で開く	6・4<2>
社会			
5	5	米国観光団男5、女5、計10人が佐賀市に来佐。佐賀駅で市長ら50人が出迎えて歓迎、数百人の見物人の中、人力車でリッパードとピーク邸に向かい、分宿。6日は市内の学校を訪問、エスクーキーニヤ嬢が大人気。夜は楊柳亭で歓迎会を催す。一行は正座に苦悶する。7日長崎に向け出立	4・23,5・5 ～,8<2,3>
5	○	愛国婦人会は中国の漢口に駐在の第18師団への慰問袋を募集	5・9<2>
教育・文化			
5	○	藤津郡視学中野才次は神埼郡視学に転任、後任は広島県高等師範学校訓導藤浦辰三郎	5・1<2>
5	6	米国観光団のブラウンが講演	5・7<2>
その他			
5	○	東京外国語学校に馬場勝次ら8人が入学の許可	5・2<3>
5	4	東京で白石出身者の白石会を開く。武藤近衛第4連隊長が訓示	5・7<2>
5	○	医術開業試験に柿本久平、宮原明が合格	5・5<2>
5	24	函館税関長常吉徳寿は高等官4等に叙し、依願免官(叙任・辞令) 県出身	5・26<官報 >,29<2>
5	○	米国観光団からの礼状が野口佐賀市長に届く	5・24<2>
5	○	前内務省警保局長古賀廉造はシベリヤ経由で欧州に旅行、出発は6月1日の	5・29<1>
5	31	西松浦郡楠久村出身の県立秋田高等女学校長馬場辰一は、東海道線の列車内で死去。大学南校卒、ドイツ留学あり	6・4,6<2,3>

大正2年<1913> 6月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
6	○	鹿児島県で開催予定の農商務省主催第3回林業講習会に、脊振村の芦原又一、基山村天本文六が受講の予定	6・1,12<2>
6	○	醤油の明治41年～45年までの生産額と県外移出先を掲載	6・4<2>
6	○	2年度の清酒の海外輸出額は518石、朝鮮、清国向け	6・5<2>
6	11	九州・山口各県のガス会社は会社合同を決議。のちの西部瓦斯(株)。新設の佐賀瓦斯は不参加	6・13<1>
6	○	東松浦郡湊村神集島のブリ定置網は宮崎県の日高漁業部が経営	6・14<2>
6	○	佐賀市の米国シンガー裁縫機械会社佐賀支部は、ミシンの無料教授や景品付き月賦販売を行う	6・20<2>
6	○	「川上軌道(株)の近況」 工事認可が下りず、未着工。機関車とレールはドイツのアーサーコッペル社製、客車は深川造船所	6・22<2>
6	○	専売局官制の改正により、福岡専売局佐賀出張所は、たばこの製造のほか、塩、たばこ、樟腦の取り締まり事務を管掌する	6・25<2>
6	○	小城郡農会長天ヶ瀬理八ら有明海沿岸の農会長らの岡山県の「児島湾開墾地視察記」 13回	6・26,27,30,7・4 ～7,9,13
6	○	有明海や九州西海岸の沿岸海上輸送は、大川運輸と肥後・三山汽船会社の合同による九州汽船会社との激しい競争下にあるが、さらに長崎県早岐の山口福市や松尾金十郎などによる新規参入があり、厳しい競争となりつつある	6・26<2>
6	○	東松浦郡内の各浦、島の漁業組合は29日に会合し、福岡県に対する入漁を協議の予定	6・28<2>
社会			
6	○	朝鮮移民の東洋拓殖会社扱いの元年度実績は、団体申込み81戸、古人申込み36戸、計117戸、うち承認78戸、不承認52戸、取り消し・解除31戸、現在耕作者47戸	6・14<2>
6	○	東松浦郡唐津町の宮崎宮男は、富士登山を目的とする内国観光団を募集。費用22円	6・21<2>
6	○	この頃、佐賀市内の小売米には糠や化粧粉の付着が多く、さらに台湾産の安値米混入などがある由、注意したがよいと、消息通は語る	6・26<2>

6	30	6月27日に暴風雨により行方不明の東松浦郡名護屋村の漁民の兄弟山崎金太郎と磯五郎は、漂流中外国船に救助され、上海で日本領事館に引き渡され	7・5<2>
教育・文化			
6	4	県師範学校教諭佐藤富三郎は宮城県女子師範学校教諭に転任	6・6<2>,5<官報
6	○	県師範学校教諭に大津市立実科高等女学校教諭西岡源七を任命	6・11<2>
その他			
6	1	福島県知事西久保弘道は休職となる(叙任・辞令) 県出身	6・2<官報
6	○	日韓併合記念章の県関係受賞者は主として軍人に贈られる	6・1,3,7・16<2>
6	○	東松浦郡唐津町の山内喜兵衛の福岡県津屋崎町石炭坑区92万坪の試掘願が許可など試掘許可3件	6・14<2>
6	○	第五高等学校を吉原正義、大島節、草場聡ら25人が卒業	6・30<2>
6	○	熊本高等工業専門学校を江里口五郎ら6人が卒業	7・2<2>

大正2年<1913> 7月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
7	○	深川汽船は新規購入船を「大天丸」と命名し、三菱長崎造船所で修理。英国から購入の汽船「第3大東丸」も同造船所で修理する	7・3<2>
7	○	福岡県の神谷朋五郎に、小城郡東多久村内の石炭鉱区37万坪の試掘を許可	7・18<2>
7	○	東松浦郡唐津町の内国観光会は、第2回富士登山団を募集	7・21<2>
社会			
7	○	佐賀市の改良座は東京大歌舞伎市川小団次一座約60人、新栄座は東京婦人隊活動写真中野花子1行約50人。2日から開演の予定	7・1<2>
7	○	佐賀市唐人町の東洋移民(資)出張所は、ブラジル農業移民を急募(広告)	7・1<3>
7	○	県立病院好生館はドイツ製のレントゲン機械を購入し、16日から治療に使用の予定	7・16<2>
教育・文化			
7	○	県立商船学校長に岡山県児島郡立商船学校長坂信幸を任命	7・2<2>
7	○	宣教師リップードは14日、帰国の途に就く予定。明治33年来佐、キリスト教の布教の傍ら佐賀商業学校の英語教師、佐賀幼稚園の開設に功績	7・14<2>
7	○	東京の県出身美術学校生徒は27日、第1回の東京美術学生大会を唐津で開く予定	7・24<2>
その他			
7	○	県出身の真崎寛三郎、稲富八彌ら5人が第一高等学校を卒業	7・4<2>
7	○	県出身の城島守人、栗田正、吉武長蔵ら4人に東京高等工業学校は入学の許可	7・4<2>
7	○	「有情無情」 武富時敏は後藤新平の長崎遊説の随行を、病気を理由に断った由▽	7・5<2>
7	○	県出身の多門龍天、村山勇三ら20人が早稲田大学を卒業	7・8<2>
7	○	県出身の白川静一が第三高等学校を卒業	7・8<2>
7	○	県出身の並木正が第六高等学校を卒業	7・9<2>
7	10	県出身の安富彌太郎、佐藤耕夫ら7人が東京帝国大学を卒業	7・14,22<2>
7	○	県出身の田中徳次郎、中島覚三、古賀甲三ら8人が東京帝国大学法科大学を卒業、田中は首席の成績	7・11<2>
7	○	県出身の木下繁、第二高等学校を上妻理人が東北帝国大学農科大学を卒業	7・11<2>
7	13	医科大学村岡正夫、文科大学内田寛一ら3人が京都帝国大学を卒業。内田はのちに地理学者となる	7・18<2>
7	○	東北帝国大学に県出身の永井英修、古賀嘉雄、大塚今比古、小野哲一らが入学許可となる	7・14,30<2>
7	○	県出身の古賀春一は松島炭坑の株式の6割を三井に売却、その資金で長崎電燈株式の株式の大半を手に入れ、社長に就任。北海道や常磐地方の炭坑な	7・15<2>
7	○	「有情無情」 古賀廉造は洋行を計画したが、高利貸しが押し掛け資金を巻き揚げたため、腸カタルに罹患したので洋行できないと弁解している由	7・16<2>
7	○	古賀廉造の洋行資金として中村純九郎ら4人は350円を寄付。中村は県出身で北海道知事	7・23<2>
7	○	第七高等学校に県出身の山口喜四郎ら5人が合格	7・25<2>
7	○	長崎医学専門学校に一番ヶ瀬敦、江口鉄一ら15人が入学の許可	7・27<2>
7	○	野口雄三は医学博士号を取得。杵島郡北方村出身、福岡県若松町立病院長	7・28,8・5<1,2>

大正2年<1913> 8月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
8	○	朝鮮海で出漁中に遭難死した佐賀郡西川副村の友田巳之吉、南川副村の園田忠六の遺族に、朝鮮水産組合から救済金計10円を交付	8・6<2>
8	○	朝鮮の鎮海湾、巨済島に出漁予定の佐賀郡の漁船は、西川副村17隻、東与賀村2隻。10日に出発の予定	8・11<2>
8	○	東松浦郡から玄界灘の福岡県糸島沖の福岡県海域への入漁希望者は多数に達し、福岡県は資格を精査する方針。十ヶ浦組合が1270人、沖ノ島海域は妙見外5浦は32隻、呼子14隻など	8・11<2>
8	○	朝鮮海出漁中に病死した佐賀郡中川副村の漁民鶴田清八、漁具の喪失2人に対して漁業救済金を交付	8・17<2>
8	○	イタリアで開催の万国博覧会で深川忠次は大賞、辻重之助は名誉賞を受賞	8・17<2>
社会			
8	12	九州7県連合立九州療養所の歳出額3万5017円のうち、各県分担金万1万1911円の2分の1を各県均等割、残りを人口割とする。佐賀県の負担額は3259	8・14,17<2>
8	○	東洋拓殖会社による県から朝鮮への移民は、明治44年1戸、45年56戸、大正元年42戸、計99戸全国で第4位。団体移民は須古、三神など	8・26<2>
教育・文化			
8	24	第12回県尚商大会を佐賀市の市立商業学校で開く。神戸高等商業学校生徒鷺崎又六は「革命的サンヂカリズム」と題して講演など講演多数。余興は奇術、筑前琵琶、撃剣、柔道など	8・25<2>
その他			
8	○	第六高等学校に野中義一、第八高等学校に江頭清一、古賀松三が入学	8・1<2>
8	2	佐賀郡本庄村の三好つぎ子は、朝鮮忠清南道公列機業伝習所教師として渡	8・3<2>
8	○	第一高等学校に山口民治、一番ヶ瀬佳雄、木下六郎が入学の許可	8・6<2>
8	○	副島義一の「中国第2革命」動乱下の北京滞在談	8・11<2>
8	12	工学博士長谷川芳之助の1周忌を東京谷中の全生庵で営む。旧唐津藩出身鉾山・製鉄業に功績	8・14<2>
8	16	佐賀市の黒田平八の末女黒田ちか子は東北帝国大学理科大学に入学。女子の帝国大学入学第1号	8・9,19<2>、<岩波近代日本総合年表>
8	○	「朝鮮瞥見録」 城南こと三好勝一の朝鮮視察記 16回	8・16～9・16<2>
8	○	東松浦郡唐津町の斎藤勇三らは、福岡県姪島に大敷網の設置を計画	8・24<2>

大正2年<1913> 9月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
9	7	佐賀、福岡、長崎、愛媛などの6県の水産組合は東松浦郡唐津で会合。トロール漁業禁止区域撤廃運動対策を協議し農商務大臣に請願することを決める。請願書を掲載	9・5,10<2>
9	○	朝鮮海出漁の浦項、南海島、木浦、郡山、龍岩浦の5地区の操業状況を掲載	9・11,13,14,17,18<2>
9	15	九州電燈鉄道の関係会社6社は福岡市で会合し、合併契約に調印。県関係は唐津軌道、七山水力の2会社	9・17,18<2>
9	19	第33回肥筑大川組清酒品評会を開く。優等に「豊春」、1等に「天山」、「太平」、「米緑」など18点が入賞	9・20<2>
9	22	朝鮮海漁業に従事して病死した佐賀郡中川副村の鶴田清蔵、漁具が流出した漁民6人に救済金を交付	9・23<2>
9	○	玄界海域の真珠養殖適地調査のため、三重県の大日本真珠研究所長見瀬辰平が調査	9・23<2>
9	25	肥前電気軌道の長崎県東彼杵、川棚、千綿地区の軌道敷設工事を認可	9・27<2>
社会			
9	7	三養基郡医師研究会は九州医科大学教授医学博士宮入慶之助を講師に招く。演題は「特殊の肝ジストマ類似症」。郡長ら多数が受講し感動を受ける	9・13<2>

9	24	県立病院好生館眼科部長高島舜逸がドイツ留学から帰国	9・26<2>
教育・文化			
9	13	キリスト教ルーテル派宣教師リップバードの後任として、熊本九州学院教師アーサー・ゼースタルワイドが佐賀市に着任。宿舎は中の橋小路の元リップバードの	9・15,21,23<2>
9	18	西松浦郡内各村で、郡会の決議に基づき、民風民政に関する講演会が始まる。講師は日本18高僧の1人、熊本県横島村法雲寺の加藤恵證	9・8・15,18<2>
9	○	県師範学校教諭富楠雄は三重県第1中学校に転任	9・18<2>
その他			
9	○	藤津郡吉田尋常高等小学校訓導有島誠は、朝鮮忠清南道に出向	9・6<2>
9	○	熊本医学専門学校に古賀正弘、原秀樹ら12人が合格	9・7<2>
9	11	中国の第2革命の南軍に従軍の日本人11人が退去命令を受けて長崎港に入港。県関係は江口光三	9・14,20<3>
9	12	第五高等学校の特待生に平川保一、七田龍雄が選ばれる	9・14<2>
9	13	佐賀郡本庄村役場書記西清六は北海道石狩国空知郡瀧川村に移住	9・14<2>
9	○	陸軍憲兵中尉持永浅治を韓国警視に任命	9・20<2>

大正2年<1913> 10月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
10	2	長崎控訴院長手塚太郎は、福岡県柳河から諸富を経て来佐。3日と4日は裁判所と監獄を視察の後、5日、唐津区裁判所を視察予定	10・1,3<2>
経済			
10	2	九州電燈鉄道川上発電所から福岡県大牟田に通じる高圧線は検査終了。3日から送電再開の予定	10・3<2>
10	21	田中丸(資)は明治44年3月25日設立し登記(公告) 本店小城郡牛津町、支店佐世保市松浦町、同市港町、門司市門司、三養基郡鳥栖町。目的は呉服・太物・反物・和洋糸類・洋傘・足袋・米穀類・和洋酒・食糧品・煙草・雑貨の買入販売と精米業、酒造業。代表社員田中丸善蔵と田中丸重蔵	10・19・25<3>
10	○	長崎県島原近海の漁場で、佐賀郡新北村の漁民と島原地方の漁民が「ゲンジキ」網漁法をめぐる対立	10・25<2>
10	28	第1回有明海水産研究会を県庁で開く。佐賀・福岡・長崎・熊本の水産技術官が出席し、アゲマキ被害の予防策や魚類の養殖などを協議	10・8,15,28～31<2>
社会			
10	○	朝鮮海出漁中に、木浦で病死した佐賀郡西川副村の北村與四松の遺族に、朝鮮水産組合は救済金20円を給付	10・4<3>
10	6	薩摩琵琶界の研究を目的とする佐賀臯正会は、研究所を佐賀市蓮池町に設立し、弹奏稽古を始める。教師は京都の横山臯正で、9月29日来佐	10・1,7<2,3>
10	○	長崎、熊本、門司などで布教を行っていた小城松尾山住職神代智明が帰山	10・16<2>
10	17	暴風雨のため、唐津港で船舶多数が遭難。行方不明者多数、道路や橋梁も破損。多くの遺体が漂流。ノルウェー船9000tが座礁	10・19～22<3>
10	22	博多港を出帆したトロール船が、東松浦郡名古屋村波戸岬沖を航行中、暗夜と潮流のため進路を誤り座礁	10・25<3>
10	25	長崎医専同窓会例会を佐賀市の福本亭で開き、医療に関する講演を行う。来会者約20人	10・28<2>
10	○	東京帝国大学医科大学で11月5日に開かれるトラホーム講習会に、杵島郡大町村の医師中根準一郎が出席予定	10・29<2>
教育・文化			
10	○	元年末の、キリスト教のカトリック教会1、信者数947人、ルーテル教会2、同182人、日本キリスト教2、同141人	10・27<官報>
その他			
10	5	大連在住の佐賀県出身者は県人会を開く。来会者35人	10・11<2>
10	○	「農家の福岡巡り」 小城郡農区技手 6回	10・6～8,10,11,21<3>
10	16	杵島郡福富村出身の医学士紀伊研太郎が死去。鹿児島県立病院内科部長、長崎医学専門学校教授兼長崎県立病院内科部長を歴任	10・19<2>
10	○	東松浦郡唐津町出身の朝鮮総督府検事安住時太郎は、依願免官	10・17<2>
10	19	長崎市で開催の政友会九州大会に、県からは代議士長谷川敬一郎ら12人が出席	10・11,17,20～22<2>

10	21	第1回九州連合畜産共進会と第2回九州馬匹共進会を鹿児島県で開く。県理事官らが出張、26日に褒賞授与式。佐賀県から3人が受賞、神埼郡東脊振村の徳川権七は功労者に選ばれる	10・ 2,9,11,23,25,26 ,28<2>
10	○	「旅行雑感」山田兼介 21回 富山県で開催された関西九州連合水産集談会に参加するまでの道中記、山田は佐賀郡西与賀村長	10・ 23,24,26,27,29, 30,11・ 3,6,10,17,20,23 ,12・ 4,5,7,8,11,13,1 4,17<3>
国内・国際			
10	1	九州沖縄8県下税務署長会議を熊本で開く。5日まで	10・3～6<2>

大正2年<1913> 11月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
11	○	九州汽船会社は深川汽船部から福山丸など数隻の汽船を買収し、同船が就航していた島原～三角、島原～三池などの航路を整理して、発着時間を改定	11・5<2>
11	7	福岡県若津の深川造船所は、朝鮮総督府土木局注文のD型プリストマン式浚渫機台船1隻を建造し、進水式を行う	11・8<2>
11	○	長崎県東彼杵郡の(株)彼杵銀行は藤津郡嬉野村に支店を開設。開業披露の園遊会を15日、嬉野温泉会社内庭園で開く予定	11・15<2>
11	16	佐賀市岸川町の玉川麵類製造所主人の秀島春一郎は、知事から鹿児島と沖縄の麵業状況の調査を命じられ出発	11・18<2>
社会			
11	15	佐賀市今宿町の満原彌平が死去。明治初年に上海に渡り通商貿易に従事、帰国後は市会議員。75才	11・16<2>
教育・文化			
11	8	佐賀中学校教諭心得兵頭善行が死去。愛媛県北宇和郡出身で13年間勤務	11・14<3>
11	14	佐賀郡思齊尋常高等小学校訓導兼校長前田嘉一郎ら3人は、香川県や愛媛県に学事視察	11・15<2>
11	○	佐賀郡川副高等小学校訓導兼校長福島健助と同郡南南川副尋常小学校訓導久米清吾は東京市への学事視察を命じられる	11・14<2,3>
11	16	佐賀対福岡の中等学校教師の庭球試合を佐賀高等女学校で行う。福岡が優	11・17<2>
11	○	藤津郡多良村出身の垣内長夫は、母校の多良小学校に教育奨励の一環としてワニ、大ネズミ、大コウモリの剥製各1体を寄贈。垣内はシンガポールで錫鉱山を経営中	11・29<2>
その他			
11	○	県出身の台湾覆審法院長石井常英は上京を命じられる	11・2<2>
11	16	京都醸造試験所で開催中の第4回全国清酒品評会は褒賞授与式を行う。九州各県からの出品は総数364点、うち佐賀県からは71点	11・22<2>
11	17	大分県日田郡に工事中の、九州水力電気会社発電所の水圧大鉄管3700フィートのうち3本の通水試験を行い好結果。鉄管を製作した深川造船所の、副社長深川忠吉は18日、日田に到着	11・20<2>
11	17	大隈重信は博多駅集会所で、東郷駅から佐賀駅間の駅員に対し講話。佐賀駅からも15人が出席する由。18日大宰府神社、東中洲の九州座、福岡県公会堂、19日と20日は熊本各地で、21日～24日は久留米や北九州、広島などの主要駅で鉄道職員に講話を行う	11・ 19,20,22,25,12・ 3<2,3>
11	25	休職中の三養基郡長音成源三郎を福井県警視に任命	11/26,27<官報> > 11・29,12・ 1,2<2>
11	○	九州電燈鉄道(株)佐賀支社は福岡、佐賀、大牟田相互間の送電線が完成したのを記念して、12月1日から電球の無料取替と街燈器具の無料貸付を行う(記事と広告)	11・26～ 28<1,2>
11	○	西松浦郡有田村の池田大九郎は熊本県阿蘇郡小国村で造林奨励の歌を覚えて帰県。「…国の為め、植えて伐りなばいつ迄も、木の枯るる世はあらじ…」	11・30<2,3>

大正2年<1913> 12月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
12	○	熊本大林区管内臼杵小林区属久保萬介を伊万里小林区署長に、伊万里小林区技手由布太郎を菊池小林区署長に任命	12・10<2>
経済			
12	○	福岡県糸島郡長糸村の三苫茂七郎ら2人が申請していた小城郡北山村での金・銀・銅試掘願、長崎県田平村の日出柄計衛が申請していた西松浦郡大坪村と牧島村での石炭試掘願、東松浦郡相知村の杉元重次が申請していた長崎県北松浦郡での石炭試掘願、西松浦郡大山村の野中喜右衛門ら2人が申請していた同村内での金・銀試掘願はいずれも許可される	12・10<2,3>
12	○	県水産試験場は伏老貝の養殖実験を継続。新たに杵島郡南有明村地先を試験地に選定し、岡山県小島郡八濱町の養貝(資)から購入した稚貝10石を播いて生育調査を行う	12・17<2>
12	22	朝鮮海出漁組合代議員会を佐賀市の武徳会場で開く。組合員で成績良好な8人を表彰	12・11,23<3>
12	○	「麺類視察報告」3回 佐賀市の玉川素麺店主英山春一郎の鹿児島、沖縄両県視察報告	12・25,26,28<2>
社会			
12	11	唐津港から石炭を満載して釜山へ向け出港した帆船が、長崎県対馬豆酸村沖で暴風のため転覆、被害額約1000円	12・25<3>
12	○	佐賀市与賀町新地の日本基督教会で11日、基督教演説会を開く予定。講師は同会共励会長で梅香高等女学校長の長田時行	12・11<3>
12	○	佐賀市高木町の光福寺は12日から14日まで、延命地藏菩薩開扉の説教を行う予定。教師は台湾布教師高岸為範	12・11<3>
12	○	佐賀出身の長崎医学専門学校卒業の安部伯彦は医籍に登録される	12・13<2>
12	25	佐賀市与賀町新地の日本キリスト教会と市花房小路の福音ルーテル教会は、クリスマス祝賀の行事を行う	12・27<2>
教育・文化			
12	○	長野県師範学校教諭末廣長は県師範学校教諭に転任	12・26<2>
その他			
12	○	県出身の村島晋作は九州帝国大学医科大学医学科を卒業	12・1<2>
12	○	県警察部で海外渡航を許可した者は21人、アメリカ、フィリピンなど7カ国に及	12・3<2,3>
12	○	東洋拓殖(株)は、佐賀郡東与賀村の山田丑太郎と宮崎勇人の、朝鮮慶尚道固城郡への移住を承認	12・4<2>
12	○	小城郡出身の吉岡豪雄は朝鮮総督府営林廠中江鎮出張所長を命じられる	12・6<2>
12	○	『南極探検史』が全て完成し、17日大隈邸で披露会を催す予定	12・17<1>

大正3年<1914> 1月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
1	○	「本県製糸業の状況」唐津半紙は品質正良の評価を得て、満州・朝鮮にも販路を拡大	1・5<2>
1	○	県鮮魚組合の代議員に佐賀郡西川副村の北村安一、久保田村の力久勘次郎ら6人を選出。代議員は組頭を兼務	1・15<2>
1	○	県朝鮮海出漁組合は朝鮮慶尚南道羅老島への出漁者が年々増加し、同島支部の設立を準備	1・15<2>
1	○	県農事講習所技手栗本準三は熊本県立球磨農業学校教諭に転任	1・20<3>
1	29	榑西肥商会は朝鮮釜山に支店を設け登記(公告)	2・1<2>
社会			
1	6	東松浦郡名古屋村や愛媛県の漁民6人が乗り組んだ漁船が、暴風雨のため長崎県壱岐島沖で遭難。3人死亡	1・11<3>
1	12	佐賀市で桜島の爆発による地震が3分間続く。13日は降灰	1・13,14<2,3>
1	14	鹿児島観光団は全員無事との連絡。同一行は西松浦郡伊万里の豪商連が募集し、10日に出発していたもの	1・16<2>
1	○	北海道の巡業を経て名古屋市で公演していた藤津郡出身の新派俳優北村生駒が率いる一座は佐賀市で興行の予定	1・14<2>

1	15	大島警察部長は知事代理として桜島噴火被害の慰問のため鹿児島に出発。20日まで	1・16,22<2>
1	○	西肥日報社と佐賀新聞社は共同で桜島噴火被害の義捐金を募集(広告)	1・16~31<1>
1	17	佐藤内務部長は各郡長、市長に対し、桜島爆発被害者に送る救恤品寄贈品の無賃輸送の条件を通達	1・18<2>
1	17	佐賀市の片田江印刷会社は桜島爆発の写真絵葉書売り出す	1・18<2>
1	22	佐賀郡東与賀村の貨物運搬船が島原から帰る途中、長崎県神代沖で強風のため沈没	1・25<3>
1	29	佐賀市神野村の峰忠六は桜島大爆発の活動写真試写会を同市寺町の千代田旅館で行う。同市の宇野写真師とともに現地を訪問して作成したもの	1・31<3>
1	○	この月、各地で桜島噴火の被災者救済のため義捐金をはじめとする寄付、追悼会を行なう	1・17,20,23~30<2,3>
教育・文化			
1	○	佐賀県有田クラブと福岡県南筑クラブの連合野球大会を4日から3日間、有田で開く予定	1・4<2>
1	20	佐賀市元町の稱念寺住職蜂須賀学純は長崎県諫早の慶厳寺住職に転任のため、20日出発の予定(記事と広告)	1・17~19、20<2,3>
1	○	県庁で29日から3日間、東京女子高等師範学校の入学試験を実施する予定。受験者は8人	1・25<2>
その他			
1	5	サンフランシスコ港の運送会社重役成富嘉太郎が交通事故死(広告)。佐賀市出身で10数年前に渡米、日本人成功者の一人	1・28~30<2,3>
1	○	海外渡航者数(2年12月) 県警察調べ。ブラジル男15人、女13人など	1・5<3>
1	○	南極探検隊の後援会が編纂していた『南極記』が完成。全480頁、うち約60頁は色澤写真、衛生部長兼写真班長として参加していた神埼郡出身の三井所清造が県内で一手販売の予定	1・7<2>
1	11	在アメリカ佐賀県人会はサンフランシスコの九州館で定期総会を開く。会長は内田晃融	3・20<2>
1	○	県出身の東京女子高等師範学校助教授黒田チカ子は他の2人の女性研究者とともに東北帝国大学で研究中	1・14<3>
1	○	大坪佐賀新聞社特派員は桜島噴火被害の状況を掲載	1・15~20<2>
1	18	福岡県若津の深川造船所長深川喜次郎は社用とインド視察のため佐賀駅を	1・19<2>
1	29	九州医師会の第2期定期代議員会を熊本市で開催。佐賀県からの出席者は大黒安三郎ら3人	1・22,28,30,31<2>
国内・国際			
1	○	台湾総督府は農業移住民を募集、県農務課で取り扱う	1・28<2,3>

大正3年<1914> 2月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
2	8	筑後川の豆津渡しの架橋工事に着手。佐賀、福岡両県共同で2万円を投じる	2・19<2>
2	19	福岡専売支局長川井常孝が来佐。22日まで佐賀出張所、中町と高木町の場外工場の事務監査を行う予定	2・20<2>
経済			
2	○	県水産試験場は試験養殖中のハイ貝を、杵島郡住ノ江港から上海に試験的に輸出し好評。有明海漁業組合連合会は岡山県から種貝を多数購入し移殖する	2・1<2>
2	3	福岡専売局製造課長小林茂七は、佐賀出張所、佐賀市中町や高木町の場外工場を視察。19日同支局長川井常孝も視察	2・4,20<2>
2	○	県は県朝鮮海出漁組合組頭に、佐賀郡西川副村の白浜増太郎や藤津郡八本木村の中島真右エ門ら12人を任命	2・3<2>
2	13	滋賀県愛知郡長石井兼寛ら7人は五石懸賞田の調査で来佐。14日まで	2・15<2>
2	13	県水産試験場は杵島郡地先の有明海で試験養殖中のハイ貝12石5斗を住ノ江港から上海に向け発送。元年から養殖を始め試験販売は今回で3回目	2・25<2>
2	○	県朝鮮海出漁組合は小城郡芦刈村の組頭に古川和三、永野福一ら6人を任	2・13<2>
2	14	ドイツカリシンジケート日本農業部主催の肥料講話会を杵島郡六角村の願成寺で開く	2・13,16<2>
2	20	福岡県の門司倶楽部で開かれた柑橘輸出連合会に、県農会書記黒木市郎と当業者井山憲太郎が出席	2・23,25<2>

2	27	京都市の井上静雄は多久鉱泉商會を譲り受け登記(公告)	3・4<3>
2	28	県朝鮮海出漁組合羅老島支部を新設、支部長に東松浦郡名古屋村の山口只雄を任命。佐賀郡、小城郡、藤津郡からの出漁者が多い	3・1<2>
社会			
2	4	佐賀郡鍋島村に帰省中の台湾総督府警視江口良三郎は、鍋島尋常高等小学校と佐賀新聞社へ台湾に関する図書などの教育資料を寄贈	2・7,8<2>
2	○	県教育会その他の援助で組織された桜島大爆発慈善活動写真会は、7日から佐賀市与賀町の喜楽舎で上演の予定	2・6<3>
2	7	浄土宗佐賀教務所は桜島罹災民の救助方法を協議。募金などを12日、鹿児島県庁内の同宗救護団本部に送る	2・8,13<2,3>
2	9	西肥日報社と佐賀新聞社は桜島罹災救済義捐金4300円を鹿児島県知事に送付	2・10,19,20,23,3・11,30<2>
2	10	佐賀郡飯盛村の妙王寺住職石井智賢ら3人は、千葉県の日蓮宗大本山法華経寺で加持祈祷の修行を終える	2・19<2>
2	15	三養基郡鳥栖町婦人会は桜島罹災民救助のため、同町の鳥栖町劇場で慈善演芸会を開く。17日まで	2・15,21<2,3>
2	17	鹿児島市東本願寺別院に避難中の桜島罹災児童ら6人は、桜島爆発の絵葉書売り歩くために来佐。18日、佐賀市の新栄座で興行中の芝居を観覧	2・18,19<2,3>
2	17	県出身で前長崎県立中学校長西村謙三の退職慰労宴を佐賀市の楊柳亭で	2・19,22<2>
2	21	藤川卯一郎主催の鹿児島桜島慰問団は臨時列車で佐賀駅を出発。23日帰着の予定。参加者は400人、費用4円30銭	1・25,2・17,22<2>
2	○	佐賀市の田中大吉は、同市の松原神社南側に台湾先住民族資料館を開設する予定。23日から5日間	2・21,22<3>
2	23	杵島郡の北方駅が主催する桜島慰問団は、臨時列車で同駅を出発。参加者は約300人、費用4円80銭、26日に帰着予定	2・19,24<2>
2	○	募集中の神埼駅発桜島鹿児島慰問団は27日に出発予定。既に満員	2・23<2>
教育・文化			
2	○	東松浦郡唐津町立高等女学校教諭永廣通は、熊本県立高等女学校教諭に転	2・19<2>
2	21	佐賀高等女学校教諭木下ツナと、武雄町外6カ村学校組合立武雄高等女学校教諭鶴田トヨは、東京女子高等師範学校で開催の第3回体操科講習会を終了	1・22,3・2<2>
2	25	平壤へ出向を命じられた藤津郡五町田尋常高等小学校長宮崎藤一の送別会を、同村の光桂寺で開く	3・1<3>
その他			
2	○	宮崎市で開催される第7回九州各県連合朝鮮海水産研究会に、佐賀県提案の議題は、漁業免許の休業期間は漁業税を免除する、移住根拠地に小学校を設置するなど5件	2・3<2>
2	○	東松浦郡相知村の杉元重次ら3人が申請していた長崎県北松浦郡皆瀬村炭坑33万2000坪の採掘鉱区の増区願を許可	2・5<2>
2	○	県からの海外輸出(2年7~12月) 中国に清酒184石4斗、朝鮮に売葉3万5242個など	2・9<2,3>
2	○	東洋拓殖(株)の募集による第4回朝鮮移住民数 県内の応募戸数368戸、移住戸数100戸。移住地は全羅南道潭陽郡15戸など多地域にわたる	2・9,13<2,3>
2	10	県出身の元函館税関長の常吉徳壽は、税務委員として中国政府から招聘され	2・5,18<2>
2	○	佐賀市の深川伍一は長崎県南松浦郡玉の浦村でブリ大敷網漁業を経営。元鹿児島水産試験場技師原田善吉を招聘	2・14<2>
2	15	佐世保市在住の杵島・藤津両郡出身者が組織する杵藤青年会は、同市で春季懇親会を開く。出席者約60人	2・18<2,3>
2	17	台湾総督府技師中村十一郎は佐賀県など2府7県へ林業視察を命じられる。神埼郡蓮池村出身	2・5,19<2>
2	○	佐賀市西魚町の北島俊行ら4人が出願した福岡県早良郡での石炭採掘願は、認可される	2・20<2>

大正3年<1914> 3月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
3	○	東松浦郡長佐藤七太郎は行政事務視察のため東京と静岡県に出張	3・7<2>

3	15	東松浦郡一帯の地理視察のため来佐中の橋本佐世保要塞司令官は、徒歩で呼子から桃川を経て西松浦郡に向かう	3・16<2>
経済			
3	○	久留米水天宮700年祭記念勸業博覧会への佐賀市からの出品人は、森永利吉の醤油、東島文六の洋服など8人	3・4,13<2>
3	○	この頃、朝鮮海への出漁式を行う。7日に佐賀郡久保田村、8日に同郡西川副村、9日に小城郡芦刈村、10日に藤津郡八本木村。出漁先は韓国全羅南道羅老島、京畿道仁川、安東県龍岩浦	2・11,3・6,11,30<2,3>
3	○	県は佐賀郡西与賀村の古川国吉と武次徳市、東与賀村の古賀常一を県朝鮮海出漁組合組頭に任命	3・10<2>
3	12	神埼郡城田村の村会議員、農会員ら12人は、熊本県飽託郡内の模範町村の行政、農政事務を視察	3・14<2>
3	24	山口県、熊本県からの農事視察相次ぐ。県農会、佐賀郡高木瀬村の五石懸賞田などを視察	3・16,25<2>
3	○	小城郡牛津町の呉服商田中丸善蔵は、久留米市の国武金太郎と提携、共同で同市に田中丸呉服店を開業。会社名は国武田中丸(資)	3・29<2>
社会			
3	9	3月初旬出発の東・西松浦観光団230人は東京に到着、10日衆議院傍聴、11日早稲田大学見学、大隈邸で宴会等の後、日光に向け出発	3・14<2>
3	○	県から3年度に台湾に移住する者は、神埼郡三田川村の深堀孫吉ら13人	3・10<2>
3	○	150人の伊勢参宮団は10日に佐賀駅発列車で出発の予定。鉄道院は客車2両を増結	3・10<2>
3	17	台中地方院検察官三好一八の歓迎会を佐賀市楊柳亭で開く	3・19<2>
3	21	神埼郡西郷村の自得寺は彼岸法会と桜島や秋田県災害死亡者の追善供養を始める。24日は青年団や夜学会員も参加。佐賀市高木町の光福寺でも実施	3・21,27<2>
教育・文化			
3	10	シー・ケー・リップトが設立した私立小城幼稚園の設立を認可	5・15<2>
3	○	県師範学校教諭奥村鶴松は奈良県師範学校へ出向	3・25<2>
その他			
3	2	博多商業会議所の臨時役員会は、東松浦郡浜崎～糸島郡加布里間の鉄道建設を急ぐよう決議。唐津町の草場猪之吉ら有志も要望	3・4,10,13<2>
3	○	佐賀県人の2月の海外渡航者は64人。うちブラジル36人など	3・2<2,3>
3	21	台湾打狗在住の佐賀出身者は打狗ホテルで親睦会を開く、参加者は約50人	4・2<2,3>
3	24	深川信六の葬儀を佐賀市の願正寺で行う。2月3日シンガポールで病死。4月26日、追悼会(記事と広告)	3・23~25,4・27,5・3<1,2>

大正3年<1914> 4月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
4	○	「市民諸君に希望す」 嘉村佐賀市助役 カリフォルニアで日本人排斥問題が生じているにもかかわらず、来佐した米国観光団の一行を歓待し、異論があった水道計画にも最後は賛成したとして、市民に謝意を表す	4・20<2>
経済			
4	○	県朝鮮海出漁組合平安北道支部は韓国龍岩浦の丸三旅館内に事務所を設置。支部長は県朝鮮海出漁組合書記石田梅一郎、県から韓国の群山近海に出漁中の漁船は63隻、平安北道龍岩浦近海に出漁中の漁船は14隻	4・1,5,23<2>
4	○	小城郡芦刈村の橋間某は1月に同村内に缶詰工場を建設、カキ8石以上をアメリカに輸出し好評	4・5<2>
4	○	県出身漁業者が朝鮮全羅北道羅老島で捕獲するエビは、3年から佐賀市元町の川口栄次が取り扱う予定	4・5<2>
4	10	熊本県水産組合理事吉川廣助と同技師國分直太郎は、フリの養殖と製造調査のため来佐	4・12<3>
4	○	県製紙同業組合評議員阿部八百八に、東京、大阪、福井へ製紙業視察を命	4・10<2>
4	17	鹿児島県薩摩郡農会書記や技術員6人は、県立農事試験場、佐賀郡高木瀬の五石田、神埼郡内の産業組合と藁細工の状況を視察。19日まで	4・19<2>
4	17	藤津郡塩田の肥前陶料会社は陶土製造場が完成。工場の設計を依頼された京都府立陶磁器試験場長藤江永考は検査と試運転のため来佐	4・20<2>

4	28	大分県速見郡内の町村長3人は漁業養殖視察のため来県、佐賀郡久保田村で貝類養殖の実況を見学	4・29<2>
4	○	この月、県農事講習所技手に熊本県玉名郡農業技手遠山友雄を任命、県技手岩淵清は長野県へ出向など、県技手、農区技手の異動多数	4・5,8,17,5・5<2>
社会			
4	○	杵島郡の男らは、砂糖を上海から同郡福富村の住ノ江港に密輸入しようとして告発され、罰金に処せられる	4・16,17<3>
4	24	朝鮮慶尚南道羅老島近海で、暴風雨のため佐賀郡東与賀村の漁船が転覆。漁民ら3人が行方不明。岡山、熊本、山口県などの漁船も多数遭難	5・9<3>
教育・文化			
4	○	広島市で開催の関西神職大会に、三養基郡の小野昌樹、藤津郡の永田佐次郎ら計22人が参加予定	4・9<2>
4	30	佐賀郡嘉瀬村の永照寺住職祖岩哲雄の送別会を佐賀市赤松町の龍泰寺で開く。曹洞宗の駐米布教師に任命され、5月に出発予定	4・24,5・1<2>
その他			
4	9	福岡専売支局管内佐賀、長崎など5県の煙草元売捌人組合総会を長崎市で開く。県からは永野茂平、岸川善太郎ら7人が出席	4・9,11<2,3>
4	○	宮崎市で開催される第7回朝鮮海水産研究会へ県からの提案議題は、主要漁場の近くに魚市場を開設することなど4件	4・9<2>
4	○	久留米市で30日に開催の招魂祭のため、九州鉄道管理局は中原～佐賀間、大牟田～武雄間、小城発本土線などで2割引きの往復乗車券を発売する予定	4・19<2>
4	○	県出身の衛生試験所技師・薬学博士田原良純、京都高等工芸学校教授本野精吾、東京音楽学校長湯原元一、東京帝大工科教授・工学博士田中不二らは東京大正博覧会審査官を命じられる	4・21<2>
4	○	県出身の前福島県知事西久保弘道は北海道長官に任命される	4・22<2>
4	○	佐賀市出身の陸軍歩兵中尉坂元守吉は飛行機研究のため欧州へ出張	4・22<2>
4	○	熊本大林区署は管内の開墾適地調査を行う。佐賀は46カ所、水田耕地面積104町、畑同47町	4・23<2>
4	○	「佐賀に来るまで」8回 大分県の豪農の子供が浮浪者となって佐賀にたどり着くまでを掲載	4・29,30,5・1,3,4,6~8<3>
4	○	熊本大林区署管内の予定造林面積(3年度) 佐賀署約59町、伊万里署約58	4・30<2>

大正3年<1914> 5月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
5	○	産業組合中央会県支会は久留米市のしまや足袋本店と割引販売の契約を結	5・7<2>
5	○	西松浦郡の深川製磁会社と九州火山灰(資)の吉岡卯八が、長崎開港記念全国特産品博覧会で名誉金杯を受賞	5・8<2>
5	○	横浜市勸業協会主催勸業共進会で西松浦郡有田町の香蘭(名)が出品した磁器が1等賞牌銀賞を受賞	5・15<2>
5	17	朝鮮総督府は朝鮮海の操業禁止区域でトロール漁業をしていた仁川秋田商会の漁船1隻を捕獲。佐賀、福岡、長崎、熊本県などからの出漁漁民が取締を	5・22,28<2>
5	18	佐賀・福岡・長崎・熊本4県連合のアゲマキ養殖主任会を藤津郡八本木村の水産試験場出張所で開く。被害調査の実施を決める	5・3,7,10,11,17,22,23<2>
5	20	西松浦郡大川村農会員数人は熊本県農事試験場と福岡県を農事視察	5・23<2,3>
5	○	「韓海出漁状況」朝鮮海出漁組合からの報告では、3年度の漁況は豊富だが、朝鮮内の不景気のため価格は下落	5・20,28<2,3>
社会			
5	○	佐賀市出身の陸軍歩兵中尉坂本守吉の送別会を佐賀市の楊柳亭で開く。飛行界視察のため欧州に派遣されるため	5・4,6,7<2>
5	5	佐賀郵便局長に宮崎郵便局長十河弦之が任命される	5・6,9<2>
5	16	佐賀市北堀端の厚生舎は慰労のため臨時休業し、男女職工全員が福岡県久留米の共進会を見物	5・16,18<2,3>
5	16	福岡県直方町で開業中の医学士多久愛次郎は、墓参のため郷里の小城郡多久町へ帰省	5・18<2>
5	19	インドへ渡航していた深川汽船会社長深川喜次郎が帰佐。20日に佐賀市の楊柳亭で歓迎会を開く	5・19,20,22<2>

5	26	南極探検隊長白瀬轟が来佐。市内各学校などで講演。28日まで	5・26,28<2,3>
教育・文化			
5	2	佐賀郡の東与賀尋常小学校長野田甚三郎、兵庫尋常高等小学校長久池井虎太ら5人は東京府や関西などへ学事視察。13日間の予定	5・5<2,3>
5	14	神埼郡内の尋常高等小学校で、児童400人が福岡県久留米の共進会を見学した際、児童1人迷子となる。引率教師は帰校して解散するまで一度も人数確認をしなかったということで新聞記事は厳しく批判。後日、児童は最初から旅行に参加していないことが判明	5・17,19<3>
その他			
5	○	海外渡航者数(4月) 計27人、最多はニューカレドニア9人	5・1<2>
5	2	神埼出身で長崎在住の弁護士陣内惣三郎が来佐。旧武雄藩士族の家禄不足高下付請願の行政訴訟のため	5・4<2>
5	6	小城出身の横須賀鎮守府付海軍主計中監福島清の送別会を福岡県門司で開く。ドイツ留学のためベルリンに向け出発	5・4,9<2>
5	○	「印度遊記 香港より」 5回 深川喜次郎	5・8~12<2,3>
5	9	長崎県西彼杵郡旧深堀村の鍋島孫六郎が死去。82才。旧深堀城主	5・12<3>
5	○	県出身の広島県理事官池田秀雄は同県参事会員と吏員懲戒審査会員を兼務	5・10<2>
5	○	県出身の池田ワラ5人は関東都督府産婆名簿に登録される	5・10<2>
5	○	小城郡多久出身で台湾総督府警視の御厨規三は「警察法要論」を出版	5・12<2>
5	15	九州製材業者大会を福岡県久留米市で開く。佐賀の相原製材所、佐賀郡諸富の江口製材所、勝谷製材所などのほか、熊本・大分・福岡県の業者が集まる	5・16,18<2>
5	16	京都帝大文科講師高田保馬は小城郡三日月村の自宅に帰省、同夜母親と共に京都に戻る	5・18<2>

大正3年<1914> 6月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
6	○	朝鮮への派遣憲兵を各分隊から選抜。佐賀分隊からは村岡與市	6・1<2>
6	10	知事に前山梨県知事若林資蔵を、警察部長に前大阪府警視二木千年を任命。現知事不破彦麿は休職、現警察部長大島直道は広島県警察部長へ転任	6・10~12,14~18,20~23,26,28~30<2>
経済			
6	1	神埼郡蚕業期成会は、片倉、尾澤、柳河らの製糸家や仲買商を招き、神埼町で生繭販売の幹旋を始める	6・2,3,5,7,15<2>
6	1	北米シアトルのカキ養殖家ウィリアム・ジェー・ボスウェルが来佐。3日まで県水産試験場、佐賀郡犬井道、杵島郡住之江のカキ養殖場を視察	6・3,6<2>
6	5	県は陶磁器、木蠟、緞通、椿油の各同業組合長を招集。4年に開催予定のパナマ太平洋万国博覧会への対応を協議	6・7<2>
6	9	有明海魚業組合連合会は、岡山県児島湾から購入したハイ貝の稚貝を杵島郡福富村など3村の試験地に移植のため、関係区長、主要業者に説明。福富村の小野文六ら3人に移植地看守人を委嘱	6・13,17<2,3>
6	○	長崎開港350年紀年全国特産品博覧会の佐賀市の受賞者を掲載。1等は竹下佐八	6・11<2>
6	○	「鮮海出漁者状況」 朝鮮海で操業中の佐賀郡、小城郡、藤津郡からの漁業者は、漁期終了のため近く帰県予定	6・23<2>
6	27	サンフランシスコ博覧会出品打合せ会を県庁で開く。木蠟、椿油、陶磁器、素麵、緞通を指定	6・27,30<2>
社会			
6	16	朝鮮の羅老島で遭難死した佐賀郡東与賀村と同郡西川副村の漁民の遺族に、同島の県出身者らが香花料を贈る	6・16<2>
6	20	台湾覆審法院長石井常英の招待会を佐賀市の楊柳亭で開く	6・21<2>
教育・文化			
6	3	熊本県玉名郡東部の小学校長9人が藤津郡久間村小学校、4日は同郡浜小学校を視察	6・5<2>

6	○	この月、各郡で教育総集会、教育談話会、視察会を開く。藤津郡、三養基郡、杵島郡、佐賀郡青藍部、春日部、同郡与賀部など。杵島郡では南極探検隊長白瀬中尉が講演	6・3,4,7～ 10,17,21～ 23,25,30,7・ 1<2>
その他			
6	○	佐賀市出身の青木大勇は長崎医学専門学校教授兼長崎病院皮膚科医長に	6・6,12,13<2>
6	11	県出身の田中丸善蔵は長崎県佐世保市会議員に当選	6・13<2>
6	○	県出身の京都帝国大学理工科教授本野亨は満州出張を命じられる	6・13<2>
6	21	福岡小児科学会創立10周年記念演説会を九州帝国大学で開催。県からは津田良重、副島武熊ら4人が出席	6・23<2>
6	26	京都医科大学教授松下禎二は長崎医専奨学会の基金募集のため来佐	6・28<2>
国内・国際			
6	17	蚕業試験場支場事務管轄区域を定める(農商務省告示) 佐賀県は熊本支場に所属	6・19<1>

大正3年<1914> 7月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
7	23	佐賀地裁判事に河本嘉宏を任命、現判事吉澤周一は佐世保区裁判所へ	7・24<2>
経済			
7	○	サンフランシスコ博覧会への県からの椿油出品者は、佐賀郡春日村の八木忠次郎と藤津郡古枝村の野中新三郎に内定	7・11<2,3>
7	○	佐賀郡は、3年春季朝鮮海へ出漁した漁船148隻に奨励金148円80銭を交付。同郡西川副村と東川副村からの出漁先は朝鮮の羅老島と統営で、大半は既に帰県。漁獲物の多くを有明海商会と特約販売	7・17,18<2>
7	○	伊万里製塩(株)は長崎県の松浦製塩(株)を継承し、社長に麻生太郎を選出、本社を北松浦郡今福村に設立	7・21<2>
7	○	論説「日印貿易の将来」精堂野人 佐賀市の深川汽船によるベンガル湾新航路開設を慶ぶ	7・24<1>
7	○	神埼郡脊振村小学校長島清治ら3人は、8月20日から島根県で開催の農商務省主催第4回林野講習会に出席予定	7・26<2>
7	27	杵島郡内町村勸業主任会を開き、朝鮮移住、林業講話会などについて協議	7・29<2>
社会			
7	2	台湾の原住民制圧の際に戦死した佐賀市出身の陸軍少尉室島一二の葬儀を、同市の称念寺で行う	6・3,7,7・1～ 3,22,27,28<2,3>
7	○	この月、愛国婦人会による、台湾原住民制圧部隊への慰問袋募集に対し、寄贈が相次ぐ。計785袋が集まる	7・ 9,11,18,19,22,2 6,8・5<1,2,3>
教育・文化			
7	3	五高生有志は、巡回演説会を佐賀市公会堂で開く。4日は小城中学校で演説	7・3,5<2>
7	26	佐賀郡東川副村真宗寺院19寺は夏期仏教講習会を開く。講師は福岡県の筑紫高等女学校長水月哲英	7・30<2>
7	○	文部省は、4年2月から開催のパナマ太平洋博覧会に県からの出品者として有田工業学校を指定	7・29<2>
その他			
7	○	県警察部調べの海外渡航者数(6月) 英領ベナン2、シンガポール1、マレー半島1、スマトラ1、ウラジオストック5、フィリピン2、欧州1など	7・2<2>
7	○	「欧州の飛行界」3回 飛行機研究のため欧州に出張中の佐賀市出身歩兵中尉坂元守吉の書信を掲載	7・16～18<2>
7	○	「小浜遊記」山田兼介 5回 長崎県小浜温泉への旅行記	7・ 8,20,21,23,25<1 2,3,>
7	19	小城郡三日月村出身の大日本武徳会範士辻真平は中国大連で病死。満鉄会社の剣道教師、65歳	7・27<2>

大正3年<1914> 8月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			

8	○	県朝鮮海出漁組合木浦支部長竹下剛太郎は、韓国木浦梁山江の漁況を同組合に報告。夏季はウナギ漁の他にみるべきものが無いなど	8・3<2>
8	○	佐賀郡久保田村の中島政七は朝鮮海出漁用の改良漁船新造のため、藤津郡八本木村の中島八左エ門は遠洋漁船新造のため奨励金交付を県に申請	8・5,11<2,3>
8	○	サンフランシスコで開催されるパナマ太平洋万国博覧会への陶磁器の出品内容が決まる。出品人は西松浦郡有田町の有田製陶所、藤津郡西嬉野村の陶磁器組合、有田工業学校など13団体	8・7<2>
8	11	杵島郡の白石土地俵は、本店を韓国忠清南道天安郡に移転し登記(公告)	8・13<3>
8	12	岸本県内務部長は晩秋蚕の掃立を控えたり夏秋蚕繭の購入を見合わせたりしないよう各郡市に通達。欧州の戦局拡大で蚕糸業者は生産を縮小しているが、日本の貿易相手国の米国の需要は戦争で増加する見込みという、大日本蚕糸会の意見書を受けたもの	8・14<2>
社会			
8	11	白井県立病院好生館副院長は、ドイツが開戦したために医薬や器械の供給が無くなり、我が国医界に与える影響は少なくないと語る	8・12<3>
教育・文化			
8	1	県内真宗各組合講習会を佐賀市の願正寺で開く。講師は神埼町出身で京都佛科大学講師後藤澄心	8・2<2>
8	○	西松浦郡伊万里町で伊万里庭球倶楽部と佐世保海軍経理部員などは9日、庭球競技会を開く予定	8・9<3>
その他			
8	1	深川喜次郎所有、大阪商船会社傭船の第二大東丸は、中国の青島でドイツ軍艦から一時抑留される	8・10,14<2,3>
8	○	イギリス領事事務官ジョン・ピーカーは東松浦郡唐津町に駐在。9月、同国の代理領事となる	8・14,9・18<2,3>
8	○	県出身の大分県警視岩松繁夫は同県南海郡長に任命される	8・22<2>
8	○	県出身の朝鮮総督府勸業模範技師山本小源太は休職となる	8・28<2>
8	○	佐賀中学出身の文学士高田保馬は京都帝国大学法科講師に嘱託される。社会学を講義	8・28<2>

大正3年<1914> 9月

月	日	記事	掲載月日<面>
経済			
9	4	島根県美濃郡農会技手山下乙三郎ら6人は神埼郡西郷村の藁細工、県農事試験場などを視察	9・6<2,3>
9	20	佐賀市菓子製造組合はロシアへ軍需品として丸房露の納入を決め、三井物産会社に見積書を提出	9・20,22<2>
9	○	無限責任西郷信用購買販売生産組合は第3事務所を福岡県三井郡國分村に設置し登記(広告)	9・24<3>
社会			
9	○	朝鮮海水産組合は、朝鮮黄海道延平島沖で石首魚漁業中に遭難した藤津郡八本木村の漁民に救済金15円を、同国南海島で遭難した小城郡芦刈村の漁民に16円を支給 ※石首魚(イシモチ)	9・4,9<2,3>
9	5	元県技師蓑田留の送別会を小城郡小城町の松屋で開く。郷里の福岡県筑紫郡八幡村で果樹園と養鶏業を営む予定	9・8<2>
9	7	諸富警察分署は、禁漁期間中に佐賀県の有明海側で味六貝を採取した福岡県の漁民11人を漁業取締規則違反で送検	9・8<3>
9	8	獣医組合総会を佐賀市高木町の願正寺で開く。鹿児島県獣医畜産大会出席者江崎揖取の報告、出征獣医に慰問状を送ることなどを決議	9・10<2>
教育・文化			
9	○	師範学校教諭に澤タメ、佐賀中学校教諭に兵庫県立神戸中学校教諭白井敏輔、佐賀工業学校教諭に福岡丈太郎を任命。	9・10,13,27<2>
その他			
9	○	外国渡航者(8月) 米国2、フィリピン1、カナダ1、ペルー3、ウラジオストック1など計24人	9・3<2,3>

大正3年<1914> 10月

月	日	記事	掲載月日<面>
---	---	----	---------

経済			
10	5	県参事会はサンフランシスコで開く万国博覧会への出品奨励費1112円の支出を可決	10・6<2>
10	○	有明海漁業組合連合会は10日、佐世保海兵団へのカキ共同販売について関係者と協議予定。3年は暴風雨と高潮被害のため納品が困難な見通し	10・7,10<2>
10	26	県水産試験場はサンフランシスコ博覧会に出品する牡蠣の標本、同缶詰を東京へ発送	10・28<2>
10	○	この月、県外から農事視察が相次ぐ	10・13,14,20,22,25,11・1<2,3>
教育・文化			
10	○	佐賀工業学校は第2回生徒製作展覧会を31日、開く予定。八幡、釜石製鉄所のほか佐賀市内の電気会社やガス会社も出品予定	10・29<2>
10	○	九州素人浄瑠璃大会を30日から3日間、佐賀市新馬場の新栄座で開く予定。西松浦郡有田の深川栄左衛門も出演	10・29,30<2>
10	31	元西与賀村尋常小学校長勝田龍吉郎の歓迎会を同小学校で開く。退職後、大阪で実業家として活躍、同村の公共事業などを援助	11・3<2>
その他			
10	○	県出身の長野県諏訪郡長竹下源六は同県東筑摩郡長に転任	10・3<2>
10	○	唐津港の輸出炭(9月末) 合計3万2920トンで8月に比べ6割増加。仕向地は中国1万1220トン、香港6700トン、マニラ1万5000トンなど	10・5<2>
10	28	第2回有明海水産研究会を長崎県庁で開く。県技師木原万吉ら3人が出席	11・3<2>
10	○	海外渡航者(10月中) ウラジオストック13人、アメリカ合衆国3人など計20人	10・31<2>

大正3年<1914> 11月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
11	○	佐賀郡の各村長は、朝鮮の釜山で開催中の慶尚南道共進会を視察のため、13日に出発予定。併せて移民のための詳細な調査も計画	11・11<2>
11	12	台湾総督府属三宅廉平は官営移民奨励のため来佐、佐賀郡役所で各村長に対し移民勧誘を依頼	11・13<2>
経済			
11	3	福岡県農事試験場技師常光恭一は県農会、農事試験場、佐賀郡高木瀬村などの稲作状況を視察。4日に福岡県農会常任幹事嶺陽一郎は五石田調査のため同郡北川副村、西川副村を視察	11・4,5<2>
11	15	佐賀郡久保田村の村田家、石川家などの地主は、村田家の御茶屋で8156俵を公開入札。県内外から米穀商約100人が集まる。小城郡牛津町の乗富福市と長崎県佐世保市の犬山藤一郎が全て落札。12月13日、蔵納米に対する褒賞授与式を行う	10・29,31,11・16,12・8,14,15<2,3>
11	○	福岡専売局佐賀出張所長に平野義賢が任命される	11・16,17<2>
11	○	「花筵業の状況調査」9回 杵島郡須古村の石橋安太郎と渡邊剛は兵庫県、岡山県、福岡県を視察し報告	11・17,21,23,29,12・2,3,6,8,13<2,3>
社会			
11	2	三養基郡内の仏教婦人会員は福岡県久留米俘虜収容所を慰問	11・4,5<2,3>
11	5	福岡県の久留米衛戍病院に入院中の戦傷病兵5人は佐賀衛戍病院へ転院。15日は19人、26日は19人	11・5,6,15～17,26,27<2>
11	28	須古太郎らは、ドイツ大使館書記松永直吉、農商務省から英国へ派遣留学の西村文治、大阪在住の弁護士古賀英の歓迎会を佐賀市の楊柳亭で開く	11・27,30<2,3>
11	○	この月、第1次大戦の青島攻撃による県出身者、歩兵第55連隊所属兵士の戦死、負傷の知らせ相次ぐ	11・1,2,4,9～14,17～23,25～30<2,3>
11	○	この月、各地で中国青島攻撃の際の戦死者の葬儀を行う	11・3,5,7,10,12,14,15～17,25,26,28,29<2,3>
教育・文化			

11	9	第五高等学校生徒約600人は佐賀市の願正寺で学術演説会を開き、10日、武雄に向かう途中で発火演習の予定	11・8,10,11<2>
11	10	九州図書館連合会を佐賀図書館で開催。各県の公立図書館の館長、職員らが出席	10・23,29,11・11<2,3>
その他			
11	15	肥前協会上海支部会は同地で秋季大会を開き、青島陥落の祝賀、県出身同文書院学生の中国旅行の慰労を行う	11・29<3>

大正3年<1914> 12月

月	日	記事	掲載月日<面>
政治			
12	6	熊本税務監督局は、杵島郡大町村を過去3年間の国税徴収が成績佳良であるとして表彰。10日は小城郡西多久村、13日は佐賀郡大詫間村を表彰	12・15,18<2>
12	16	中国青島に出征していた歩兵第55連隊の帰還が始まる。佐賀駅前には凱旋門とイルミネーションが設置され、多数の群集が沿道に出迎え	12・15～21,25,28,4・1・1<2,3>
12	28	前第18師団長青島攻囲軍司令官陸軍中将神尾光臣が来佐。数千人の市民が佐賀駅で歓迎	12・27,4・1,1<2>
経済			
12	2	熊本大林区署長橋口正美は佐賀、武雄各小林区内の林業視察のため来県	12・3<2>
12	○	福岡県筑紫郡の藤田三郎出願による佐賀郡川上村と鍋島村内の石炭鉱区93万3100坪、両村と小城郡三日月村の石炭鉱区93万9300坪の試掘願を認可	12・6<2>
社会			
12	6	東松浦郡呼子村の漁船が長崎県壱岐沖合で暴風のため転覆。2人行方不明	12・8<3>
12	6	東松浦郡呼子村の漁民3人が同郡馬渡島付近で暴風雨のため、漁船が転覆し漂流、鹿児島県の漁船が救助。4年1月、知事は救助者を表彰	4・1・17<2>
12	24	凱旋祝賀会を佐賀市の銅像園で開く。佐賀・長崎両県知事、唐津在住の英国領事ら約1500人が出席、高木瀬練兵場では祝賀競馬会	12・10,17,21,23～26<2,3>
教育・文化			
12	○	鹿島中学校長に滋賀県出身の杉浦五郎を任命、前校長秋田實は大阪府立富田林中学校長へ転任	12・4,5,9<2>
その他			
12	○	県水産試験場書記坂井高一は依願免官となり台湾に渡航	12・4<2>
12	○	県出身の辻幹六は長崎医学専門学校薬学科を優等卒業、銀時計1個を授与される	12・4<2>
12	○	唐津港から海外への石炭輸出高(11月) 10月に比べ4割減、主要仕向地は中国6395ト、ウラジオストック3350ト、マニラ1万700ト、朝鮮1484ト	12・6<2>
12	13	その筋の内命を受け、視察のため傭船日郵丸で南洋方面に渡航中の田中丸善蔵は、神戸港に帰着。15日に小城郡牛津に戻る	12・16<2>

「蓮池藩請役所日記」医学・軍事・洋学・教育関係記事目録

本目録は、「蓮池藩請役所日記」(佐賀県立図書館所蔵『蓮池鍋島文庫』)から、医学・軍事・洋学・教育関係の記事を抄録したものである。

- 1) 作業は伊藤彰子、串間聖剛、佐藤紘一が担当した。
- 2) 「史料番号」は、佐賀県立図書館データベースで公開されている史料写真PDFのファイル名である。
- 3) 「コマ」は、上記ファイルの何コマ目にその記事があるかを示す。

○寛延3、宝暦3～明和元、4、6～8年(8年未了)

掲載年月日			タイトル・内容	分類	史料番号	コマ	備考
年	月	日					
寛延3	2	8	(直恒)存生時の匙取大儀につき中村昌探へ加扶持のこと	医学	ha023-010-01	7	翌日、直興が新当主として参勤出発
寛延3	2	9	直興江戸参駕につき御目見次第	医学	ha023-010-01	9	
寛延3	3	22	御借銀方につき長崎出張のこと	軍事	ha023-010-01	18	
寛延3	4	14	長崎仕組方につき登城のこと	軍事	ha023-010-01	33	
寛延3	6	2	諫早騒動につき人数指出のこと	軍事	ha023-010-01	57～58	
寛延3	6	4	諫早騒動沈静化のこと	軍事	ha023-010-01	58	
寛延3	6	16	御借銀方につき長崎出張のこと	軍事	ha023-010-01	62～63	
寛延3	6	18	流行病の伝染予防のため祈禱申付	医学	ha023-010-01	63～64	
寛延3	7	12	伊王島番を任命のこと	軍事	ha023-010-01	77	「辺防」という付箋有り
寛延3	7	17	諫早騒動の佐賀風説書到来のこと	軍事	ha023-010-01	79	
寛延3	7	18	諫早騒動の注進書到来のこと	軍事	ha023-010-01	79～80	
寛延3	7	22	諫早騒動のため乗馬1疋購入のこと	軍事	ha023-010-01	81	
寛延3	7	26	諫早騒動に関して佐嘉表の動向のこと	軍事	ha023-010-01	81～83	「雑」の付箋あり
寛延3	8	17	宮部宗悦の養子願を認可のこと	医学	ha023-010-01	87～88	
寛延3	9	2	医師近藤萬蔵、養子願のこと	医学	ha023-010-01	93～101	
寛延3	9	3	諫早騒動につき丹州様・信州様への口上一件	軍事	ha023-010-01	102～104	
寛延4	10	1	伊王島番を任命のこと	軍事	ha023-010-01	127	
宝暦3	9	?	三宅宗達一件につき一乗院への返書のこと	医学	ha023-010-02	6～9	
宝暦3	9	7	三宅宗達一件につき宮様への返書のこと	医学	ha023-010-02	10	
宝暦3	9	8	伊王島番を任命のこと	軍事	ha023-010-02	12	
宝暦3	9	23	三宅宗達一件につき、大坂出張の足軽への渡し方書上	医学	ha023-010-02	20～21	
宝暦3	9	23	岡太仲へ褒賞として加扶持のこと	教育	ha023-010-02	～33のうち	「著述物」出精と京坂借銀方気遣の功勞
宝暦3	9	23	三宅宗達、江戸より下向につき大坂詰め役人選定のこと	医学	ha023-010-02	～33のうち	
宝暦3	9	23	岡太仲ほか京坂銀主などへ土産物一覧	教育	ha023-010-02	36～38	白井元隆も名前から抽出
宝暦3	10	1	殿様痛みにつき御礼御覧のこと	医学	ha023-010-02	50	
宝暦3	10	16	原素竹、直恒への隨身功勞として加増のこと	医学	ha023-010-02	60	直興の幼少時から最期まで隨身
宝暦3	10	16	直恒遺物分け一覧	医学	ha023-010-02	～67のうち	原素竹(医師)、津田宗栄、中村玄喜、西岡随流、齋藤玄察(医師)を名前から抽出
宝暦3	10	21	殿様御痛漏につき祈禱御付	医学	ha023-010-02	67	
宝暦3	10	24	直興より三宅宗達赦免願写	医学	ha023-010-02	68～70	
宝暦3	11	2	三宅宗達 蓮池参着予定のこと	医学	ha023-010-02	74	
宝暦3	11	4	三宅宗達、下着のこと	医学	ha023-010-02	74～76	
宝暦3	11	13	三宅利廣、來歴尋ねにつき返書	医学	ha023-010-02	78～79	
宝暦3	12	15	殿様痛みにつき御礼御覧のこと	医学	ha023-010-02	93	
宝暦3	12	24	武藤半六、跡目相続のこと	?	ha023-010-02	103	父朴齋の名前から抽出
宝暦3	12	25	原素竹、佐野玄快、武藤半六ほか御礼進上のこと	?	ha023-010-02	104～105	原(医師)、武藤・佐野は名前から抽出
宝暦3	12	26	三宅利廣欠落につき諸役人仕置のこと	医学	ha023-010-02	106～107	
宝暦3	12	27	医師大道寺貞順へ功賞	医学	ha023-010-02	107	
宝暦3	12	27	三宅宗達連行につき功勞	医学	ha023-010-02	107～108	
宝暦3	12	29	大道寺貞順ほか御礼進上	医学	ha023-010-02	111	大道寺貞順と齋藤玄察を抽出
宝暦4	1	24	殿様痛みにつき湯治日程議定のこと	医学	ha023-010-02	125	湯治先は壇野
宝暦4	1	27	殿様痛みにつき湯治へ出発のこと	医学	ha023-010-02	126	
宝暦4	2	1	殿様御留守につき御礼御覧のこと	医学	ha023-010-02	137	
宝暦4	2	15	殿様御留守につき御礼御覧のこと	医学	ha023-010-02	142	
宝暦4	2	16	殿様湯治より御帰館のこと	医学	ha023-010-02	142	
宝暦4	2	25	痘瘡流行につき鎮西大社開帳願のこと	医学	ha023-010-02	146	
宝暦4	閏2	2	殿様御参着につき医者召し連れのこと	医学	ha023-010-02	154	
宝暦4	閏2	14	江戸御供につき薬種代ほか銀渡方願	医学	ha023-010-02	179～180	大道寺貞順、初めての江戸御供
宝暦4	閏2	15	加増につき御礼進上	教育	ha023-010-02	182	岡太仲のみ抽出
宝暦4	閏2	29	殿様参府のため召連の医者より渡し方増銀願	医学	ha023-010-02	191～192	
宝暦4	3	2	殿様痛み再発につき御礼御覧のこと	医学	ha023-010-02	193	
宝暦4	3	4	池田円八・武藤半六につき嫡子取り立て・養子願のこと	?	ha023-010-02	194～195	名前から抽出
宝暦4	3	7	本日参駕予定のところ痛み再発につき延引のこと	医学	ha023-010-02	199	
宝暦4	3	10	殿様参駕日程につき議定	医学	ha023-010-02	211	
宝暦4	3	12	池田円八・武藤半六ほか御礼進上	?	ha023-010-02	211～212	名前から抽出
宝暦4	3	15	殿様参駕につき御目見次第	医学	ha023-010-02	214～215	
宝暦4	3	17	三宅宗達儀、法事の赦の達	医学	ha023-010-02	221～223	
宝暦4	7	1	伊王島番派遣のこと	医学	ha023-010-03	6	
宝暦4	7	9	長崎奉行下向につき休泊ほか仕組のこと	軍事	ha023-010-03	31	
宝暦4	11	9	鍋島飛州様重病につき願文進上のこと	医学	ha023-010-03	93～99	飛州様:鍋島宗茂
宝暦4	11	11	殿様痛み平癒の祈禱御申付	医学	ha023-010-03	99	
宝暦4	11	15	飛州様の容体報告	医学	ha023-010-03	100	
宝暦4	11	16	御家老中より飛州様へ御機嫌伺いのこと	医学	ha023-010-03	100～101	
宝暦4	11	19	飛州様重病につき詔・乱舞など停止の達	医学	ha023-010-03	102	
宝暦4	11	24	飛州様の容体につき注進	医学	ha023-010-03	104～105	
宝暦4	11	25	飛州様危篤につき見舞のこと	医学	ha023-010-03	105	
宝暦4	11	26	飛州様逝去のこと	医学	ha023-010-03	別は106まで	11/25夜逝去
宝暦5	1	8	大塚宜随死去につき服忌のこと	?	ha023-010-03	119～120	名前から抽出
宝暦5	1	30	池田久弥、跡目相続のこと	?	ha023-010-03	126	名前から抽出
宝暦5	2	12	塩田五丁・田村日吉坊より学問伝法のため修行願	教育	ha023-010-03	131	
宝暦5	5	14	宮部宗悦、跡目相続のこと	医学	ha023-010-03	162	佐嘉家中大須賀道見の弟子山邊文道が相続
宝暦5	6	8	殿様帰路にて体調悪化につき医師派遣のこと	医学	ha023-010-03	186～187	医師・齋藤玄察
宝暦5	6	8	殿様病氣平癒のため祈禱申付のこと	医学	ha023-010-03	187	
宝暦5	6	9	殿様容体について注進	医学	ha023-010-03	187～188	
宝暦5	6	10	殿様容体悪化につき役人派遣のこと	医学	ha023-010-03	188	
宝暦5	6	11	殿様着座のこと	医学	ha023-010-03	別は190まで	

宝曆5	6	12	殿様容体悪化につき祈禱申付のこと	医学	ha023-010-03	191	
宝曆5	6	19	丹州様・信州様より殿様見舞いのこと	医学	ha023-010-03	198~199	丹州様御匙西岡長圓による診察あり
宝曆5	6	25	三宅宗達、死去のこと	医学	ha023-010-03	200~201	齋藤玄察による診察あり
宝曆5	6	27	三宅宗達の死体見分および埋葬のこと	医学	ha023-010-03	205~207	
宝曆5	8	3	御下国にあたり御用人・御医師大義につき褒美など書き上げ	医学	ha023-010-03	229~232	御医師：大道寺貞順・加納慶格/八戸忠左衛門、原素竹、津田善左衛門
宝曆5	8	10	殿様病氣快復につき祝いとして医師など目錄拝領のこと	医学	ha023-010-03	234~235	
宝曆5	8	12	宮部宗悦遺跡相続のこと	医学	ha023-010-03	235	子・宮部文道が相続
宝曆5	8	27	長崎下向の上使へ梨子進上のこと	軍事	ha023-010-03	242~243	
宝曆5	9	1	宮部文道、遺跡相続につき御礼進上	医学	ha023-010-03	248	
宝曆5	9	23	三宅宗達の看病などにつき功勞のこと	医学	ha023-010-03	270~271	
宝曆5	9	25	長崎奉行、神崎宿泊につき進上のこと	軍事	ha023-010-03	271	
宝曆6	閏11	15	久納慶格、遺跡相続のこと	医学	ha023-010-05	56	亡父・慶善
宝曆7	1	9	本野玄恕を藩医として取立のこと	医学	ha023-010-05	118	上々様御医師2名老齢につき、齋藤玄察門弟
宝曆7	2	25	痲瘋流行につき川久保大日尊へ参詣のこと	医学	ha023-010-05	153	
宝曆7	3	2	殿様下国の際、迎船より医師同伴の達	医学	ha023-010-05	158	大道寺貞順同伴
宝曆7	3	25	殿様病状につき、下国仕組ならびに渡方のこと	医学	ha023-010-05	174~176	
宝曆7	5	10	伊予島大番、今朝派遣のこと	軍事	ha023-010-05	211	
宝曆7	5	21	殿様着座につき家中御目見のこと	医学	ha023-010-05	別は223まで	4/21発駕
宝曆7	5	25	殿様持病の浮腫平癒のため祈禱申付け	医学	ha023-010-05	229	徳恩寺
宝曆7	5	27	殿様持病の浮腫平癒のため祈禱申付け	医学	ha023-010-05	231	大堂社(御氏神)
宝曆7	5	29	殿様容体、今朝より急変のこと	医学	ha023-010-05	236	
宝曆7	5	29	殿様病氣平癒のため彦彦山参詣申付け	医学	ha023-010-05	236~237	教諭房派遣
宝曆7	5	29	殿様病氣平癒のため祈禱申付け	医学	ha023-010-05	237	徳善院
宝曆7	5	29	御家中御機嫌伺いについて触達のこと	医学	ha023-010-05	238	
宝曆7	5	29	殿様の病状につき二の丸へ報告のこと	医学	ha023-010-05	238~239	
宝曆7	5	29	殿様の病状につき江戸・京・大坂へ報告のこと	医学	ha023-010-05	239	
宝曆7	5	29	殿様、対馬殿へ御用につき面談申付け	医学	ha023-010-05	239~241	
宝曆7	5	29	家続につき殿様より神代対馬宛書付	医学	ha023-010-05	241~243	萬八殿(日野右中辨母;ha023-010-06.p86)当年12歳への家督相続願
宝曆7	5	29	家続につき与扱中へ達	医学	ha023-010-05	244~245	
宝曆7	5	29	丹州様より殿様見舞いのこと	医学	ha023-010-05	254~256	昨朝より食欲停滞、吐瀉、夜中から体調悪化
宝曆7	5	29	丹州様より御医師大須賀道軒をして容体伺いのこと	医学	ha023-010-05	256~258	既に逝去、齋藤玄察より説明
宝曆7	5	29	殿様逝去につき領内へ触のこと	医学	ha023-010-05	258~260	昼七時半逝去
宝曆7	6	4	御近習ほかへ勤め方につき達	医学	ha023-010-06	27~29	御医師ほか従来通りの勤務申付け
宝曆7	6	7	萬八殿出府時期につき二の丸より御用のこと	医学	ha023-010-06	34~45	萬八殿の年齢、痲瘋前、地理的条件から出府延引を本藩が幕府に打診するか相談→結果として延引は認められず、10/11発駕決定
宝曆7	6	10	萬八殿痲瘋軽安と出府延引につき祈禱申付け	医学	ha023-010-06	47	徳恩寺(痲瘋軽安)、妙徳寺(左同と出府延引)
宝曆7	7	11	大慈院様六七日につき親類・家老・近習ほか御飯拝領	医学	ha023-010-06	87	御医師、大慈院;甲斐守直興
宝曆7	7	19	丹州様へ御家督御祝儀の面談について年寄中より指示のこと	医学	ha023-010-06	90~92	殿様幼少につき、本藩医の西岡長圓・佐野仲庵が引回、甲斐守のときは佐野仲庵が引回、
宝曆7	7	25	丹州様への面談の引回役兩人より仰越さること	医学	ha023-010-06	99	
宝曆7	7	27	原七郎兵衛、遺跡相続のこと	医学	ha023-010-06	100	亡父・素竹
宝曆7	7	27	古館李右衛門、遺跡相続のこと	?	ha023-010-06	100	亡父・内蔵
宝曆7	8	1	原七郎兵衛、相続御礼進上のこと	医学	ha023-010-06	105	原口音大夫が御礼
宝曆7	8	1	古館李右衛門、相続御礼進上のこと	?	ha023-010-06	105	犬塚六右衛門が御礼
宝曆7	8	2	殿様面談時の引回役両医へ御盃振る舞いのこと	医学	ha023-010-06	111~112	7/10が面談日
宝曆7	8	14	西岡長圓・佐野仲庵へ初御面談御祝を下賜のこと	医学	ha023-010-06	125~126	
宝曆7	8	14	敷内宗也、西岡ほか両医退出後の引回につき御祝下賜のこと	?	ha023-010-06	126	
宝曆7	8	19	殿様御面談の御祝として家中などへ御酒下賜のこと	医学	ha023-010-06	127	御側御小姓
宝曆7	8	19	殿様御面談の御祝につき進上物書上げ	医学	ha023-010-06	127~132	
宝曆7	9	29	伊予島小番、明日から派遣のこと	軍事	ha023-010-06	192	
宝曆7	9	30	下向中の長崎奉行に対し、使者・進物を省略のこと	軍事	ha023-010-06	192	幕府による正式な家督継承前につき
宝曆7	10	8	殿様不快につき発駕延引の口上覚	医学	ha023-010-06	199	先月下旬から風邪、類瘧
宝曆7	10	9	八戸忠左衛門、御側御召しの達	医学	ha023-010-06	201	
宝曆7	10	10	殿様不快につき発駕延引の旨、江戸へ注進のこと	医学	ha023-010-06	201	
宝曆7	10	11	発駕延引の旨、家中へ申達のこと	医学	ha023-010-06	203	p203~205、家督仰渡は名代で可、参府の上名改めのこと
宝曆7	10	14	船手組池上六大夫より御目見ほか願のこと(父七大夫大病)	医学	ha023-010-06	208~211	人參過分に用いて治療も…
宝曆7	10	24	不快につき今月中の発駕困難の由、鍋島満八口上覚	医学	ha023-010-06	214~216	類瘧、寒塾。今月中の発駕について江戸から打診につき。
宝曆7	10	24	江戸御供の医師、大道寺貞順病氣につき中村玄喜へ変更のこと	医学	ha023-010-06	216	
宝曆7	11	1	齋藤玄察を江戸御供の医師として任命のこと	医学	ha023-010-06	221	
宝曆7	11	1	御匙本野玄恕へ吉原池田圓八揚り屋敷を下賜のこと	医学	ha023-010-06	221	神崎住まいで遠方につき
宝曆7	11	5	齋藤玄察、江戸御供を固辞につき受理のこと	医学	ha023-010-06	224	大慈院様御匙を勤めたものの御不幸につき、上々様御匙固辞
宝曆7	11	5	本野玄恕、今度御出府につき御供中村玄喜に手伝を指示のこと	医学	ha023-010-06	224~225	旅行中における殿様の大病や痲瘋への対処を懸案として江戸御供辞退につき、手伝申付け
宝曆7	11	10	本野玄恕、江戸より帰着につき加勢銀ほか下賜のこと	医学	ha023-010-06	229~230	
宝曆7	11	10	秀嶋謙益を御側格・玉泉院様御匙に任命のこと	医学	ha023-010-06	230	玉泉院;殿様祖母
宝曆7	11	13	中村玄喜より江戸御供のため取替銀願い出のこと	医学	ha023-010-06	235	取り替え銀五百目差し渡し
宝曆7	11	14	秀嶋謙益へ三人扶持・米五石四斗加米のこと	医学	ha023-010-06	241	
宝曆7	11	15	秀嶋謙益、加米への御礼進上のこと	医学	ha023-010-06	246	
宝曆7	11	15	武藤判六へ切米一石加増につき、御礼進上のこと	?	ha023-010-06	251	
宝曆7	11	19	萬八殿御甲初のこと(御帰館時に御側御ほかより祝儀申上)	医学	ha023-010-06	255~257	来21日発駕につき本藩へ暇乞。同時に御甲初めの儀式。
宝曆7	11	20	海上不順により出府延引の儀、外向は萬八殿不快とすること	医学	ha023-010-06	258~260	萬八殿口上之覚あり
宝曆7	11	21	萬八殿不快とする延引理由は不要との本藩判断のこと	医学	ha023-010-06	261~266	
宝曆7	11	22	御甲初につき本藩医西岡長圓・佐野仲庵へ祝儀を下賜のこと	医学	ha023-010-06	271	
宝曆7	11	26	海上不順により出府延引の儀、御不快として届け出ること	医学	ha023-010-06	277~278	
宝曆7	12	8	明日発駕の儀、公儀への届け出願	医学	ha023-010-06	288~290	萬八殿病氣段々快方ニツキ
宝曆7	12	8	秀嶋謙益へ池田圓八揚屋敷下賜につき修理代ほか銀1貫合力のこと	医学	ha023-010-06	291~293	
宝曆7	12	9	殿様発駕につき御目見次第	医学	ha023-010-06	293~295	
宝曆8	3	24	本野玄恕ほか江戸より下着のこと	医学	ha023-010-07	43	江戸大坂よりの状箱を玄恕が持ち下す
宝曆8	5	1	長崎仕組のため二の丸へ出向のこと	軍事	ha023-010-07	77	

宝暦8	5	15	幕府より防疫指令につき本家へ合力願	軍事	ha023-010-07	83~86	「先々代十七ヶ年以前右御役被相働候節…」
宝暦8	5	29	去年葬礼勤めの面々へお茶振る舞いのこと	医学	ha023-010-07	96~97	御側御医師
宝暦8	5	29	飢飯米拝領の百姓へ行賞として鳥目1貫文下賜のこと	医学	ha023-010-07	97~100	
宝暦8	6	13	防疫への合力につき、本家より回答のこと	軍事	ha023-010-07	110~112	合力拒否
宝暦8	7	17	江戸より長崎奉行へ暑中見舞い飛札到来につき、長崎へ発送のこと	軍事	ha023-010-07	134~136	
宝暦8	7	18	伊王島小番を派遣のこと	軍事	ha023-010-07	136	
宝暦9	3	4	足軽、弓鉄砲を稽古のこと	軍事	ha023-010-07	170~172	
宝暦9	3	5	弓鉄砲稽古の場所を変更のこと	軍事	ha023-010-07	172	
宝暦9	3	7	足軽、弓鉄砲を稽古のこと	軍事	ha023-010-07	173~174	
宝暦9	3	9	足軽、弓鉄砲稽古のこと	軍事	ha023-010-07	177~178	
宝暦9	3	10	足軽、弓鉄砲稽古のこと	軍事	ha023-010-07	177~178	
宝暦9	3	10	鉄砲的や玉葉の調達費として足軽一組に鉛三丁下賜のこと	軍事	ha023-010-07	177~178	
宝暦9	3	10	鉄砲的の飾りほか大儀につき、尾形軍治へ銀二両下賜のこと	軍事	ha023-010-07	177~179	尾形軍治; 当役(宝暦10.12ha023-010-08.p206)
宝暦9	4	25	家中稽古のため馬賣馬場に鉄砲を設置のこと	軍事	ha023-010-07	195~196	
宝暦9	4	26	長崎仕組方御用につき二の丸へ出向のこと	軍事	ha023-010-07	197	
宝暦9	7	10	斎藤玄察屋敷の南側道路の半分を三家で割り地のこと	医学	ha023-010-07	229~231	
宝暦9	7	26	長崎奉行へ暑中見舞の飛札を明朝発送のこと	軍事	ha023-010-07	234	
宝暦9	9	9	本家より領中へ儉約令発令のこと	医学・軍事	ha023-010-07	267~276	
宝暦9	10	10	牟田諸左衛門より人參代御取替について知行代米からの納入願をうけ、達のこと	医学	ha023-010-07	285~286	
宝暦9	12	28	懸硯方関七兵衛、鋭指指南大儀につき金子200足下賜のこと	軍事	ha023-010-07	329	
宝暦10	2	6	玉泉院様御匙秀嶋謙益、眼病につき快気まで大道寺貞順が代勤のこと達	医学	ha023-010-08	19	
宝暦10	2	9	家臣姉妹の家の帳認替え願をうけ、類例として小城藩が長崎から医師を抱えた事例を参照のこと	医学	ha023-010-08	22~24	元在京の宝蓮院殿御附・枝国忠右衛門と妾服の間に京都でもうけた一男一女の扱いについて、忠右衛門没後に倅が願い出のこと
宝暦10	3	12	鹿島藩より備前守殿の持病(痰痔)のため参勤延引の旨報告のこと	医学	ha023-010-08	39	
宝暦10	4	19	殿様と甘露寺大納言様末娘千百姫様との縁組成就につき祝儀として御酒下賜のこと	医学	ha023-010-08	77~78	御医師へも下賜
宝暦10	4	21	長崎仕組のため二の丸登城のこと	軍事	ha023-010-08	78	
宝暦10	5	27	大應院様25年忌をうけて、末期まで随身した行賞として斎藤玄察・大道寺貞順ほか御茶下賜のこと	医学	ha023-010-08	92	斎藤玄察、大道寺貞順、宮部宗順
宝暦10	7	7	主税殿、初の防疫につき家中より祝儀のこと差函	軍事	ha023-010-08	110	
宝暦10	7	19	防疫の仕送りのため正銀30貫目の取替を本藩に願出一件	軍事	ha023-010-08	119~121	不景気につき銀札通用停止のため、19日まで兌換停止中(本藩指示)。江戸への仕送りに間に合わないとして取り替えを要請。
宝暦10	10	13	神崎町安平へ鳥目1貫文下賜のこと(去年以来、御屋形で兵書の講釈をする米倉権兵衛の道中休息所となったため)	教育	ha023-010-08	180~181	
宝暦10	12	26	秀嶋謙益、玉泉院様御匙につき褒美として銀2枚下賜のこと	医学	ha023-010-08	205	
宝暦11	8	13	先代様御鑑召初の手数について鹿島へ問い合わせのこと	医学	ha023-010-09	14~25	延享元年2月4日の御鑑召初について御側格御医師の出迎え、御側格御小姓格御医師からの献上物および拝領品など書上
宝暦11	9	3	殿様、持病を疳積とすることで来春まで出勤断りの段、本藩へ打診のこと(前方毛利文之助様出勤お断りの節の旧記書き抜き含む)	医学	ha023-010-09	42~50	医師枚原通玄・吉田玄長へ相談の上、断りを届け出ること
宝暦11	9	15	久納慶格養弟を養子として出す件、了承のこと	医学	ha023-010-09	55	堤丈右衛門末子岩次郎を養弟とし、濱野千左衛門へ養子として差し出すこと
宝暦11	9	15	龍津寺大湖和尚、老人かつ儒書の講釈の段大儀につき一代限り二人扶持3石6斗とすること	教育	ha023-010-09	57	
宝暦11	12	22	久納慶格伴兵五郎を富永市兵衛の孫養子とする願を許可のこと	医学	ha023-010-09	126	富永市兵衛; 御内御広式詰(ha023-010-09.p162)
宝暦12	2	23	長崎奉行へ年始御状を遣わずこと	軍事	ha023-010-09	160	長崎奉行; 正木志摩守
宝暦12	3	10	鹿島藩主備前守直郷、痰喘・腰痛のため来る11日の参勤出発を延期のこと知らせ	医学	ha023-010-09	168	
宝暦12	4	26	長崎仕組のため鍋島數馬が二ノ丸へ出向のこと	軍事	ha023-010-09	182	
宝暦12	閏4	15	久納慶格、弟俊甫を嫡子取立の願一件、許可のこと	医学	ha023-010-09	191	
宝暦12	5	19	殿様今秋参勤につき二ノ丸宛口上のこと(殿様疳積快方につ	医学	ha023-010-09	212~213	殿様17才のため参勤しなければ支障につき
宝暦12	7	19	東目郷内の百姓、農作業のため雨乞浮立が困難につき城原町の者を雇い雨乞ほか浮立のこと	医学	ha023-010-09	252~253	城原町の者どもが火の用心・雨乞・疳瘡軽安を願う浮立を実施
宝暦12	8	27	御直様、堀川左衛門佐様との縁組のため上京。本野玄恕ほかお供のこと。	医学	ha023-010-09	295~302	極秘旅行
宝暦12	10	22	長崎奉行より書状到来のこと	軍事	ha023-010-09	379	長崎奉行; 正木志摩守
宝暦12	11	27	東西私領における流行病転除のため祈祷執行のこと	医学	ha023-010-09	396	西目筋; 逸り疾病あり、北目筋; 以ての外の痛み、東目筋; 流行の村あり
宝暦12	12	4	宮部宗賢、宮部名跡ならびに知行物成相続のこと	医学	ha023-010-09	406	
宝暦12	12	4	宮部文道、病身につき療治方困難として与頭より隠居願い	医学	ha023-010-09	407~416	宗順弟子宗賢が相続。与頭などへ御呵。
宝暦12	12	9	玉泉院様、当夏頃御病氣につき、宮部宗順・同宗賢用捨のこと	医学	ha023-010-09	418~419	修理殿御免につき商人用捨に及ばず
宝暦12	12	17	去る四日宮部一件につき修理殿と役中へ御呵の達	医学	ha023-010-09	420	
宝暦13	2	15	殿様の初御目見祝いとして、御医師ほか御酒拝領のこと	医学	ha023-010-10	28	
宝暦13	2	18	宮部文道一件につき、旧臘四日当時忌中の者へ、忌明けをうけて御呵の達のこと	医学	ha023-010-10	30	輪平左衛門
宝暦13	4	24	長崎御仕組につき二の丸へ呼び出しのこと	軍事	ha023-010-10	78	
宝暦13	6	15	斎藤玄察の初御目見につき、斎藤玄察御礼のこと	医学	ha023-010-10	89	御礼; 斎藤玄察
宝暦13	8	3	兵動玄節の初御目見につき、兵動玄越御礼のこと	?	ha023-010-10	130	
宝暦13	8	18	直姫様御婚礼のため京都より千姫様御下りにつき、大里路御供仕組のこと	医学	ha023-010-10	148	御医師大道寺玄順が小倉まで御供
宝暦13	9	15	御入部の御祝拝領の節伊王島勤務中の原口音大夫、御祝受領のこと	軍事	ha023-010-10	177~178	
宝暦13	9	15	中村昌深、御滞府中の御赴への功勞として御入部祝受領の	医学	ha023-010-10	178	
宝暦13	10	4	広東人参の商売に関する幕府禁令を領内へ触達のこと	医学	ha023-010-10	200	
宝暦13	10	4	紀伊守様不快につき、朝鮮人御馳走方役は同勢差し登せとすること	医学	ha023-010-10	201	
宝暦13	10	9	長崎表御借銀返済につき折衝のこと	藩政	ha023-010-10	205~207	
宝暦13	10	14	大道寺玄順、千姫様御下りの御供の功勞として銀3枚受領の	医学	ha023-010-10	207~210	大道寺玄順は京都で医師稽古中
宝暦13	10	15	大道寺玄順の初御目見扇子上進につき、斎藤玄寛による御	医学	ha023-010-10	210	

宝暦13	10	20	長崎借銀の年賦銀高につき佐嘉より通達のこと	藩政	ha023-010-10	217~222	
宝暦13	11	11	長崎下向使大岡美濃守様、今日神埼にて昼休みにつき、素類一曲進上のこと	軍事	ha023-010-10	240	
宝暦13	12	1	中村豊竹の初御目見御礼および中村昌探による御礼進上	医学	ha023-010-10	268	
宝暦13	12	3	殿様御婚礼につき御側御小姓・御茶道・御医師へ酒・肴拝領のこと	医学・教育	ha023-010-10	273	11/9殿様・千百姫様御内分御婚礼、12/3表向御婚礼
宝暦13	12	3	殿様御婚礼につき御側御小姓・御茶道・御医師より殿様へ鮮鯛と樽酒を祝儀として進上のこと	医学・教育	ha023-010-10	274	
宝暦13	12	3	殿様御婚礼につき御側御小姓・御茶道・御医師より御新造様へ鮮鯛と樽酒を祝儀として進上のこと	医学・教育	ha023-010-10	277	
宝暦13	12	3	殿様御婚礼につき斎藤玄察へ御新造様より金子百疋拝領のこと	医学	ha023-010-10	279~285	
宝暦13	12	29	紀伊守様御隠居願一件、却下のこと	医学	ha023-010-10	306~309	紀伊守様：当春以来御病氣の上、余症発症。壮年。* 嫡男喜三郎：虚弱のうえ眼病。* 次男伊三郎：家督相続候補。幼年。
宝暦14	1	22	斎藤玄覚・大道寺玄順、御側格へ召し成し	医学	ha023-016-01	7	
宝暦14	1	26	惣足軽中の弓鉄砲の来月朔日より御上覧のこと達	軍事	ha023-016-01	9	
宝暦14	2	1	宮部宗臨の初御目見ならびに宮部宗賢の御礼を進上のこと	医学	ha023-016-01	19	
宝暦14	2	3	中野八右衛門ほか両与足軽の鉄砲稽古を御覧のこと	軍事	ha023-016-01	22	
宝暦14	2	4	本庄理兵衛ほか両与足軽的稽古を御覧のこと	軍事	ha023-016-01	22	
宝暦14	2	5	輪尼平左衛門ほか三与足軽的稽古御覧のこと	軍事	ha023-016-01	22	
宝暦14	2	5	兵動玄節の江戸表での医学修業につき暇願一件、許可のこと	医学	ha023-016-01	25~26	正月29日付兵動玄悦の願文への回答
宝暦14	2	6	光野勤兵衛ほか三与足軽の弓鉄砲稽古御覧のこと	軍事	ha023-016-01	27	
宝暦14	2	7	嬉野治部允ほか四与足軽の弓鉄砲稽古御覧のこと	軍事	ha023-016-01	27	
宝暦14	2	15	鄭玄伯の初御目見ならびに坂井平兵衛の御礼を進上のこと	医学?	ha023-016-01	37	
宝暦14	2	26	勝屋織部、隠居塾生の命につき、斎藤玄察次男を家統とする願	藩政	ha023-016-01	45~47	二月一四日に隠居塾生の裁許。願は許可され、勝屋太郎三郎200石相続。三月二日に伊織と改名。
宝暦14	3	22	殿様昨夜中より積気につき明日からの参勤は延期のこと	医学	ha023-016-01	74~79	御持病の積気
宝暦14	3	27	殿様快方につき、本家より四月初頭の出發を要請のこと	医学	ha023-016-01	82~83	
宝暦14	4	1	長崎奉行へ御発駕届を提出のこと	軍事	ha023-016-01	93	
宝暦14	4	19	御前様御誕生日につき、中村昌探・百武秀右衛門、御前様御馳斎藤玄察・大道寺貞順へ御酒下賜のこと	医学	ha023-016-01	104	
宝暦14	4	29	長崎御仕組方御用のため二の丸へ出向のこと	軍事	ha023-016-01	106~107	
明和1	7	24	深堀伊王島番のため明日出向のこと	軍事	ha023-016-01	150	
明和1	8	20	殿様6月末頃より不快にて積気と診断につき、祈禱申付けのこと	医学	ha023-016-01	169~171	
明和1	8	25	長崎銅為替銀の返納年賦銀高につき請役所より通達のこと	藩政	ha023-016-01	175~176	
明和1	9	11	長崎諸入具銀について年賦払いの願書	藩政	ha023-016-01	194~195	却下、切地での返上
明和1	9	23	長崎諸入具銀の返済について願書	藩政	ha023-016-01	200	切地ではなく銀支払いを希望
明和1	10	8	秀嶋千太郎へ亡父謙益遺跡を申しつけること	医学	ha023-016-01	207~208	
明和1	12	21	玉泉院様御隠居所移徙につき御側御小姓・御医師、御側格まで御酒拝領のこと	医学・教育	ha023-016-01	247~248	御側御小姓・御茶道・御医師・御側格より塩鯛、樽酒を進上
明和1	閏12	24	殿様着座の折、西御屋形御門前にて御目見次第	医学・教育	ha023-016-01	258~259	御用人、御側、御医師、御側格、外御目附
明和4	7	1	長崎近藤平治右衛門への借銀筋につき年賦払いの差図を佐嘉請役所へ要請のこと	藩政	ha023-016-03	8~10	
明和4	7	4	明和3年8月の御仕方改正をうけて帳面精査のこと	軍事	ha023-016-03	12~14	西目・東目代官、西目・東目検者など雑務役人列記。このうち伊王島番：山口九左衛門 奉行：石谷備後守
明和4	7	4	長崎奉行へ暑中見舞いのこと	軍事	ha023-016-03	14	
明和4	7	4	長崎近藤平治右衛門への借銀筋に関する請役所よりの書状を、長崎北村用右衛門へ発送のこと	藩政	ha023-016-03	14	
明和4	7	12	長崎近藤平治右衛門への借銀筋につき奉行所よりの添翰などの写を請役所へ提出のこと	藩政	ha023-016-03	22	
明和4	7	19	長崎近藤平治右衛門への借銀筋につき、平治右衛門方との交渉のため金子など発送のこと	藩政	ha023-016-03	24~25	
明和4	7	20	長崎入具銀の納入に関する請役所触のこと	藩政	ha023-016-03	25~27	
明和4	7	20	長崎入具銀の納入につき、蓮池など三家による延期願	藩政	ha023-016-03	27~28	
明和4	7	21	厄病流行につき祇園宮にて軋除祈禱を指示のこと	医学	ha023-016-03	29	
明和6	1	2	御前様御病氣につき長崎滞在中の今井田立松呼出し一件	医学	ha023-016-05	2~3	旧臘22日より病氣か
明和6	1	4	長崎滞在中の今井田立松の止宿先である龍津寺へ金子百疋下賜のこと	医学	ha023-016-05	3	
明和6	1	10	今井田立松、昨夜到着のこと	医学	ha023-016-05	5	
明和6	1	14	伊王島番山口九左衛門、下着のこと	軍事	ha023-016-05	10	交代により一昨夜下着
明和6	2	22	馬場昌朴、江戸にて医術稽古に出精につき召し出しのこと	医学	ha023-016-05	36	三人扶持米5石4斗拝領
明和6	2	23	今井田立松、御前様快然につき幸府ほか見物の為明日出立のこと	医学	ha023-016-05	39	
明和6	3	7	佐嘉長瀬町の鑓師中嶋市右衛門を歩行として召し出すこと	軍事	ha023-016-05	49~50	親に右衛門は佐嘉家中鍋嶋喜左衛門の家来
明和6	3	15	御前様全快につき、おれき様お七夜御祝いを執行のこと	医学	ha023-016-05	54	去年5月の出産後体調不良のため延期
明和6	3	15	お産の節太儀につき功勞のこと(久納俊甫、大道寺貞順、本野玄恕、斎藤玄察)	医学	ha023-016-05	55~57	
明和6	3	15	おれき様お七夜祝いとして、御医師御側格ほか御酒拝領のこと	医学	ha023-016-05	61	
明和6	3	3	久納慶格弟子馬場昌朴、江戸で医術稽古の御側格に取り立てのこと	医学	ha023-016-05	69	久納俊甫に附いて江戸稽古
明和6	4	3	御前様御快然の御祝につき、病中功勞者が常丸様より金子拝領のこと(斎藤玄察、大道寺貞順、本野玄恕、久納慶格)	医学	ha023-016-05	80~82	
明和6	4	3	御前様全快の御祝につき千屋姫様より金子拝領のこと(斎藤玄察、大道寺貞順、本野玄恕)	医学	ha023-016-05	82~83	
明和6	4	3	御前様御快然の御祝につき、御医師御側格ほか御酒拝領のこと	医学	ha023-016-05	84	
明和6	4	5	今井田立松が暇で長崎帰参につき、近江屋五左衛門年賦銀を同行の足輕に持たせること通達	医学・藩政	ha023-016-05	86	
明和6	4	9	徳恩寺の茶道再建の棟上につき金子500疋拝領のこと	教育?	ha023-016-05	89	
明和6	9	26	伊王島番として演野千左衛門ほか明日出發のこと	軍事	ha023-016-06	46~47	
明和6	10	10	馬場昌朴に家法相伝のため、久納の苗字名乗りについて、久納慶格より出願のこと	医学	ha023-016-06	73~74	江戸で三田昌仙、丸山昌貞に師事
明和6	10	27	斎藤玄覚、亡父玄察の遺跡相続のこと	医学	ha023-016-06	100~101	知行80石
明和6	11	5	当秋初めより当主が持病の積気を再発し、長崎より今井田立松を呼び治療のところ、回復につきお暇許可のこと	医学	ha023-016-06	119~121	今井田立松、長崎表に患者抱えにつき暇願。暇を認められた後、諫早兵庫より診療を依頼される。兵庫から蓮池へ今井田による診療の許可を願い出て、認められ、しばらく佐嘉に滞ること

明和6	11	8	筑後柳川領で相撲地取芝居の開催につき、御仲間の方より稽古のため暇願のこと。	教育	ha023-016-06	122	御相撲方役々より諸注意のこと
明和6	11	13	川副郷と神埼郡での鳳鴨鉄砲獵を御進物方へ出願のこと	医学・教育	ha023-016-06	125~127	療養中の当主の遊行用との覚書を添付のこと
明和6	11	15	斎藤玄覚の亡父知行相続につき御礼請	医学	ha023-016-06	129	
明和6	11	15	久納昌朴の名字改めにつき御礼請	医学	ha023-016-06	129~130	
明和6	11	24	柳川領小保での相撲芝居につき見物禁止の触(佐嘉請役所より)	教育	ha023-016-06	140~142	これをうけ柳川滞在中のお仲間そのほか相撲取りへ帰参命令を発令
明和6	11	26	内輪で御前様の快気祝いを執行のこと	医学	ha023-016-06	2~143、145	以前の快気祝いの折に、当主が江戸滞在中であったため開催
明和6	11	29	伊王島にて飯米銀不足につき仕送り願のこと	軍事	ha023-016-06	149	
明和6	12	1	御移徒御祝として御料理・御酒など拝領の面々書上	医学・教育・軍事	ha023-016-06	153~160	御親類・御仲間・惣家中、内向きの祝は8月19日に執行済
明和6	12	1	川副郷と神埼郡での御獵願一件、認可のこと	医学・教育	ha023-016-06	163~164	
明和6	12	3	殿様、川副郷へ出獵のこと	医学・教育	ha023-016-06	164	
明和6	12	5	出獵用捨日について佐嘉より回答のこと	医学・教育	ha023-016-06	169~170	
明和6	12	5	文彦社御祭りにつき御側御小姓御側格ほかへ御酒拝領させられること	医学・教育	ha023-016-06	170	
明和6	12	17	明年御参府御供の面々書上(御祐筆御懸硯方并御勝手方本野玄恕)	医学	ha023-016-06	180~186	
明和6	12	23	長崎奉行へ寒気見舞進上のこと	軍事	ha023-016-06	189~190	
明和6	12	24	御前様の病氣祈禱および御屋形普請の地割祈禱の功勞として、徳恩寺舜興法印へ三人扶持米を下賜のこと	医学	ha023-016-06	190~192	
明和6	12	26	吉次郎様(佐嘉)御不幸につき、殿様出獵の是非問い合わせのこと	医学・教育	ha023-016-06	198~199	
明和6	12	27	殿様出獵のこと	医学・教育	ha023-016-06	201	
明和6	12	30	御褒美拝領の面々書上(御近習 斎藤玄覚・兵動玄節、(御絵方 和田貞七)、中村昌孫、久納慶格、久納昌朴、久納徳雪、大道寺貞順、本野玄恕)	医学	ha023-016-06	211~224	
明和7	10	1	泉州様御家督御礼の儀執行につき、御親類・御家老中・御近習中より祝儀を申上ること	医学	ha023-016-08	5	
明和7	10	7	長崎奉行衆の帰府につき通路仕組のこと	軍事	ha023-016-08	24~40	
明和7	10	7	長崎表銅為替年賦銀につき当年返済分の延期願	藩政	ha023-016-08	40~42	長崎より返済について既に連絡があり、この願状は撤回
明和7	10	9	殿様不快がちにつき京都の医師・王舎元詔を御側医として雇用のこと、江戸より書状にて報告	医学	ha023-016-08	43~44	30人扶持54石、御側
明和7	10	13	宮部宗臨屋敷を御用のため取り上げのこと	医学	ha023-016-08	49~50	
明和7	10	13	当年分の長崎表銅為替年賦銀につき返済延期の再度願	藩政	ha023-016-08	56~58	却下のこと
明和7	10	27	常丸様の痲瘡輕安のため家中よりの願文を請役所へ提出のこと	医学	ha023-016-08	68	
明和7	11	1	当年分の長崎表銅為替年賦銀につき来春納入の儀、願	藩政	ha023-016-08	73~74	
明和7	12	2	江戸屋敷詰の医師・津田宗順、医学稽古のため外宅となることを江戸より通達のこと	医学	ha023-016-08	110~111	15人扶持27石
明和7	12	4	常丸様の痲瘡輕安のため親類・家老中よりの願文を提出のこと	医学	ha023-016-08	79~80	
明和7	12	12	長崎銅為替年賦銀について納前銀納とする願出	藩政	ha023-016-08	114~115	
明和7	12	29	大道寺貞順、久納徳雪に対し、上々様への投葉につき褒美を下賜のこと	医学	ha023-016-08	126	
明和8	1	8	帳付にて年頭御礼を申し上げた面々書上げ(中村昌益、鄭玄璞(?))	医学(?)	ha023-016-08	137	
明和8	1	12	殿様より長崎奉行への寒中見舞を差出し、返書到来のこと	軍事	ha023-016-08	152~153	
明和8	1	15	今井田立松へ御用につき、明日長崎へ役人派遣のこと	医学	ha023-016-08	162	
明和8	1	28	薬種購入に付き請役所より触到来のこと	医学	ha023-016-08	184~185	
明和8	2	1	銅為替銀の納入期限につき引分方より通達のこと	軍事	ha023-016-08	188~189	
明和8	2	14	領内での痲瘡流行につき白山八幡宮ほかへ祈禱を申し付ける触が、請役所より到来のこと	医学	ha023-016-08	206~208	
明和8	3	3	御用につき今井田立松が逗留中のところ、切手が期限切れとなったため手続きのこと	医学	ha023-016-08	228	
明和8	3	6	当年の長崎仕組方役人について問い合わせ	軍事	ha023-016-08	228~229	
明和8	3	18	常丸様、痲瘡の感染前につき今井田立松を逗留させたところ、今井田より暇を出願のこと	医学	ha023-016-08	247~248	
明和8	3	21	常丸様痲瘡未感染につき、今井田が明朝帰長のこと	医学	ha023-016-08	252	
明和8	4	3	上々様への投葉につき大道寺貞順へ銀2枚拝領させられること	医学	ha023-016-09	7	明和7.12.29の下賜時に大道寺不快に付延引
明和8	4	12	長崎御仕組方より寄合の日程につき連絡のこと	軍事	ha023-016-09	15	
明和8	4	17	上様全快につき、登城の上、病後御礼を上申のこと	医学	ha023-016-09	20~21	上々様;蓮池、上様;江戸
明和8	4	17	痲瘡流行中、常丸様が健勝であることと、上々様の健勝に上様御満足のこと	医学	ha023-016-09	21~22	
明和8	4	18	鹿島より佐賀まで御英様御通行の折、衣裳召し替えなどに際して、町屋ではなく役々屯所を利用のこと。痲瘡流行中につき	医学	ha023-016-09	25~27	
明和8	5	4	5/8より伊王島番大番の勤務のこと	軍事	ha023-016-09	45	
明和8	5	6	御本家より蓮池家中への樽肴拝領物を御屋形にて下賜のこと	医学・軍事・教育	ha023-016-09	46~47	
明和8	5	22	伊王島大番、明後24日に出発のこと	軍事	ha023-016-09	69	
明和8	5	23	伊王島大番勤務のため手頭切手と遠眼鏡を差し渡し	軍事	ha023-016-09	69	
明和8	5	23	江戸より殿様下国のところ、伏見にて津田宗順発病につき、播州室津まで安芸守様医師の加川元厚を雇用のこと。	医学	ha023-016-09	69~71	なお伏見から王舎元詔もお供のこと
明和8	5	24	下国随伴の医師が不在につき、王舎元詔にお供させること。	医学	ha023-016-09	75~76	
明和8	5	25	大坂の河野忠右衛門より京都烏丸屋敷へ王舎元詔の蓮池雇用について申し出につき、京都より佐賀へ国元での雇用手続きについて確認のこと	医学・教育	ha023-016-09	77~79	河野忠右衛門;大坂屋敷番、岡太仲;河野忠右衛門の親。京都儒者。延享年中、蓮池藩儒(『漢文学者総覧』(s54)71p)
明和8	6	4	殿様御着座につき御医師ほか御目見のこと	医学・軍事・教育	ha023-016-09	89~91	

明和8	6	10	長崎奉行と島原家老へ殿様着座の報告のこと	軍事	ha023-016-09	96~97	
明和8	6	18	長崎奉行への暑中見舞、伊王島番などへの支払銀等を長崎御用達へ届けること	軍事	ha023-016-09	113	
明和8	6	19	鑓師中嶋市右衛門、死去のこと	軍事	ha023-016-09	115	
明和8	6	20	鑓師中嶋市右衛門死去につき、実弟千五郎の養子相続を認可のこと	軍事	ha023-016-09	117~118	
明和8	7	7	大道寺玄順ほか殿様着座につき御礼申上ること	医学	ha023-016-09	158	
明和8	7	9	学文稽古に出精につき小姓4名および稽古方2名を外様に任命のこと	教育	ha023-016-09	164	
明和8	7	10	斎藤玄覚、久納昌朴を御側御免のこと	医学	ha023-016-09	165	
明和8	7	23	原口治兵衛、江戸で種田流鎗術の免許授与につき家中師範として取立てのこと	軍事・教育	ha023-016-09	190~193	
明和8	7	25	原口治兵衛を鎗術師範として採用につき、諸芸頭取の富永市祐より家中へ案内のこと	軍事・教育	ha023-016-09	195~197	

○安永2年(未了)

掲載年月日			タイトル・内容	分類	史料番号	コマ	備考
年	月	日					
安永2	1	4	常丸様へ御礼申上げにつき対面のこと	軍事	ha023-017-01	6	足軽、長柄鎌、鯛子など御祝儀言上
安永2	1	6	西目居ならびに病氣にて年頭御礼延引の面々のこと	医学	ha023-017-01	8~10	鄭玄
安永2	1	6	野口嘉右衛門■嘉源次儀去る三日病死につき筋々申入れ	医学	ha023-017-01	11	
安永2	1	9	神崎郡北御丸御側より手紙一件につき狼方より御用露の旨筋達のこと	軍事	ha023-017-01	17	
安永2	1	9	長崎笹屋伊助病症乱心につき嬉野へ召し連れ手当の儀	医学	ha023-017-01	17~20	嬉野宿別当喜兵衛書付、医者
安永2	1	10	嬉野伊助一件につき	医学	ha023-017-01	27~28	
安永2	1	13	市川十郎左衛門鉄砲にて御用の露仰せ付くこと	軍事	ha023-017-01	34~35	
安永2	1	16	江戸へ罷り登る阿蘭陀人長崎出立のこと	洋学	ha023-017-01	42	会所触二通
安永2	1	16	阿蘭陀人泊休のこと	洋学	ha023-017-01	42~44	
安永2	1	16	御用の露仰せ付くこと	軍事	ha023-017-01	47	
安永2	1	23	御用の露仰せ付くこと	軍事	ha023-017-01	57~58	
安永2	2	2	船方御番船四十艘のこと	軍事	ha023-017-01	75	
安永2	2	2	政右衛門病氣一件	医学	ha023-017-01	76	
安永2	2	7	長崎御奉行へ江戸より年始御状到来につき	軍事	ha023-017-01	85~86	
安永2	2	13	巨勢善五左衛門倅助右衛門儀傷身二付御奉公叶い難きこと	医学	ha023-017-01	94	
安永2	2	13	中村昌探母死去二付定式之忌服請御届筋々申入ること	医学	ha023-017-01	94	
安永2	2	16	各弟子内式拾石已上侍文通武芸に相助み御用に立つ者名書差し出しに付き文武方より達	教育	ha023-017-01	103	牟田卯左衛門、村上百助、関平太夫御用につき
安永2	2	16	志田小平太儀武芸方出精に付き	教育	ha023-017-01	104	牟田卯左衛門口上覚
安永2	2	16	鎗術馬術江口毫助、鎗術劔術馬術志田小平太武芸方出精につき名書のこと	教育	ha023-017-01	105	蓮池家中富永市佐弟子
安永2	2	16	関平太夫儀、佐嘉御家中より弟子無きこと	教育	ha023-017-01	105	
安永2	2	17	大道寺貞順、医師差し遣わしに付き願	医学	ha023-017-01	106	倅玄順内談のこと
安永2	2	22	当春江戸参上の阿蘭陀人通路の節、先触外に夫丸調えのこと	洋学	ha023-017-01	123	
安永2	2	28	肥州様長崎御番御役仰せ暮らる付き進物方のこと	軍事	ha023-017-01	129	二丸御進物方より聞番呼出
安永2	2	28	権右衛門より御進物方迄挨拶のこと	軍事	ha023-017-01	129	聞番をもって申し入れ
安永2	2	28	長崎御役仰せ暮る件	軍事	ha023-017-01	129~130	濱野源太夫呼出のこと
安永2	2	29	野村新五左衛門儀長病に付き一件	医学	ha023-017-01	130	
安永2	3	3	3月15日より長崎御越しに付き御泊・御休のこと	軍事	ha023-017-01	137~139	会所触到来、塩田差越につき池田次左衛門請書
安永2	3	5	学文方節範の人無きに付き栗原嘉十儀爰元召し呼びのこと	教育	ha023-017-01	142	大坂屋敷詰河野忠右衛門迄
安永2	3	11	弥永太郎左衛門祖父母長病、今昼相果てる段筋々申し入れのこと	医学	ha023-017-01	146	
安永2	3	15	長崎御仕組方より申し来たること	軍事	ha023-017-01	150~151	勝屋伊織方名前書載に付き
安永2	3	16	神田進之儀儀病氣の処養生相叶わず去る14日相果てること	医学	ha023-017-01	152	家継之儀倅新九郎
安永2	3	19	籠舎仰せ付けの処、病氣に付き代座籠仰せ付けのこと	医学	ha023-017-01	155	
安永2	3	19	直塚林右衛門儀大切之病氣に付き急に出動叶い難きこと	医学	ha023-017-01	155	名代池田庄左衛門
安永2	3	19	直塚林右衛門儀病人用捨罷り在り	医学	ha023-017-01	157	
安永2	3	24	蓮葉院妹病氣にて究屋敷に罷出ざること	医学	ha023-017-01	169	塚庄八妹連乗院
安永2	3	25	平尾文右衛門儀長病に付き書付を以て組方へ相達こと	医学	ha023-017-01	169	
安永2	3	25	今晝文右衛門儀相果てること	医学	ha023-017-01	169	
安永2	3	晦日	来月中、侍・手明鐘武芸御上覧に付き、出人数名書差出しのこと	軍事	ha023-017-01	174~177	文武方y申来るに付き蓮池家中関平太夫請書、名御礼次第の儀に付き
安永2	閏3	1	樋口才右衛門病方に付き御礼物計り上ること	医学	ha023-017-01	186	
安永2	閏3	3	大坂天王寺村馬場先町吉田屋文藏、藤津西分下宿村にて相果てるに付き佐嘉御目附井に請役所年行事へ相達す書付のこと	医学	ha023-017-01	190~191	庄屋より谷口武兵衛様へ注進
安永2	閏3	7	殿様御不快御整遊ばされ、去月19日y御出動の旨申し来ること	医学	ha023-017-01	195~196	
安永2	閏3	9	長崎御仕組方より来る11日御城御出ならるべき旨仰せ渡し	軍事	ha023-017-01	198~199	
安永2	閏3	10	御上覧の節勝負口など御覽遊ばざる段、文武方より触達のこと	軍事	ha023-017-01	201~202	勝負口勝手次第御覧のこと
安永2	閏3	12	殿様御不快御遊ばされ、去月19日y御出動の由申し来ること	医学	ha023-017-01	205	
安永2	閏3	13	伊東忠次郎病身に付き、養子願の如く仰せ付くこと	医学	ha023-017-01	205	
安永2	閏3	15	常丸様御不快に付き当日御礼御帳付のこと	医学	ha023-017-01	209	
安永2	閏3	22	御屋形御歩行屯詰、御儉約に付き相減らざること	軍事	ha023-017-01	220	成富齋甫請役所聞次に仰付ける
安永2	閏3	24	文武方より申し来る、富永市佑鎗術・長刀・柔術御上覧のこと	軍事	ha023-017-01	222	
安永2	閏3	25	今度江戸より罷下る阿蘭陀人通路に付き、人馬泊休のこと	洋学	ha023-017-01	224~225	3泊4日
安永2	閏3	28	会所触より申し来る、御下向御勘定御普請役御泊休のこと	軍事	ha023-017-01	228~229	
安永2	閏3	29	御船奉行鎗尼平左衛門撰州へ差越し、来月13日限より伊万里出船のこと	軍事	ha023-017-01	229	
安永2	閏3	29	会所触より申し来る、御下向御勘定御普請役金銀両替のこと	軍事	ha023-017-01	229~230	
安永2	閏3	29	御下向御勘定衆御普請役通路に付き人馬のこと	軍事	ha023-017-01	230~231	
安永2	4	1	殿様御不快御整遊ばされ、去月朔日より御登城首尾能く御礼仰せ上げに付き、先日申し来ること	医学	ha023-017-01	235	
安永2	4	1	文武方触、各御弟子中鎗術御上覧のこと	軍事	ha023-017-01	236~237	文武方より市佑へ達す書上
安永2	4	7	蒲田津船持共旅出御切手の儀、長崎御仕組方居船御切手の儀に付き	軍事	ha023-017-01	243~245	
安永2	4	7	異国船入津の時分に付き、御領国浦々例年の如く御念入の	軍事	ha023-017-01	245	
安永2	4	12	萩原徳左衛門儀長病の末昨11日夜相果てる段組方を以て申入れ、倅七右衛門儀定式の服忌に付き申し来ること	医学	ha023-017-01	250	
安永2	4	13	御下向御迎御石船氣遣鎗尼平左衛門明14日y伊万里罷り越し速御出帆含越しの事、御船方役々・鯛子等追々伊万里罷り越しのこと	軍事	ha023-017-01	250~251	諸渡方左之通、以下一つ書9ヶ条記載あり
安永2	4	13	御船中御無難の御祈禱、徳忍寺執行致さる様仰せ付けのこと	軍事	ha023-017-01	251	
安永2	4	14	御石船鯛子不案内の者ばかりにて小倉・下関y雇鯛子2人の	軍事	ha023-017-01	251	
安永2	4	15	昨日y御船奉行鎗尼平左衛門出立に付き、御出船見届けの為明16日より足軽以下庄左衛門申付け伊万里差越しのこと	軍事	ha023-017-01	254~255	諸渡方左之通、以下一つ書2ヶ条記載あり
安永2	4	19	平松次次郎儀昨日死去の段申入れに付き、急中用捨のこと	医学	ha023-017-01	256	
安永2	4	19	御迎船昨18日昼ノ潮■崎迄御出船の由見届け、足軽以下庄左衛門罷帰り申達すこと	軍事	ha023-017-01	256~257	
安永2	4	23	原口晋太夫、隠居願の如く家統倅平次兵衛へ仰付ける事、病氣に付き名代へ相渡す	医学	ha023-017-01	260	259「隠居家督縁組仰付越」の内
安永2	4	26	疫病相流行の段、祈禱に付き金子渡しのこと	医学	ha023-017-01	263	
安永2	4	27	御船奉行鎗尼平左衛門留守に付き、氣遣柴山九郎右衛門勤めらること	軍事	ha023-017-01	266	
安永2	4	28	疫病転除御祈禱の御礼組々々外へ下すこと	医学	ha023-017-01	268	

安永2	5	5	当年舸子究として来る8日y津々罷越しに付き、郷内櫓手叶帳面の儀例年の通相調え置くこと	軍事	ha023-017-01	275~276	津方触写
安永2	5	7	戸田因幡守様今般御在所へ御暇蒙るるに付き、彼家老中y知らせ来ること	軍事	ha023-017-01	277	他領主(島原戸田氏)参勤交代
安永2	5	11	郷内諸商賣御止の儀、牢人・又者・不具の者作方のこと	医学	ha023-017-01	279~280	請役所達帳写到来
安永2	5	13	御下国御迎船先達て差上られる処、御船奉行鑰尼平左衛門長州下ノ関より舸子2人飛脚として罷越しに付き、又々下ノ関へ差返す旅籠賃其外渡方の事	軍事	ha023-017-01	280~281	大里路3日片道分路銀駄賃御定の如く差渡す
安永2	5	13	中嶋甚兵衛産穢に付き、出勤御用捨のこと	医学	ha023-017-01	281	
安永2	5	17	宮部宗餘儀、東屋敷泊番御医師仰せ付けのこと	医学	ha023-017-01	282	
安永2	5	晦日	中村昌探儀病身に付き東御屋敷泊番差免され下さる様願の	医学	ha023-017-01	292	
安永2	6	11	清兵衛方母先達てy病氣の処、養生相叶わず昨夜死去に付き、定式の忌服請の段筋々申入れのこと	医学	ha023-017-01	307	
安永2	6	14	長崎御奉行夏目和泉守様去る12日御死去に付き、佐嘉y申し来ること	軍事・医学	ha023-017-01	308	御病氣の処御養生相叶わず、領内達の事
安永2	6	17	佐嘉筋其外世間辺り病氣これある段相聞くに付き、■(麻垂+ヒ)病軀除の為祇園社大般若2部御祈禱仰付けらること	医学	ha023-017-01	310~311	
安永2	6	27	今度長崎御越しに付き、二御丸元々方・夫調方より達しのこ	軍事	ha023-017-01	320~321	佐嘉会所触
安永2	6	29	殿様益御機嫌能、当月3日江戸御発駕、24日御乗船直に佐越迄御出船遊ばさる由、今已ノ刻注進小倉y相達す	軍事	ha023-017-01	325	参勤交代
安永2	6	29	御下着に付き、例年の通大里y轟木迄■人足氣遣吉留善左衛門、扱又小道具者3人明朔日朝y大里迄差越し、諸渡方の	軍事	ha023-017-01	325~326	参勤交代
安永2	6	29	右便にて御親類拙者共y大里御着の御祝儀申上げの書状其外、大里へ持越しのこと	軍事	ha023-017-01	326	参勤交代
安永2	6	29	御下国大里御着、余日無く轟木宿御止宿遊ばされ、御本家様御茶屋御借ならる段佐嘉筋々へ申入れのことなど	軍事	ha023-017-01	326~327	参勤交代、大里路宿割などのこと

○安永6～8年(8年未了)

掲載年月日			タイトル・内容	分類	史料番号	コマ	備考
年	月	日					
安永6	1	4	例年の通り惣足輕御帳付にて御祝儀のこと	軍事	ha023-017-07	4	
安永6	1	5	長崎奉行久世丹後守へ病氣見舞の御状が江戸より参ること	医学	ha023-017-07	5	
安永6	1	1	飛脚足輕渡し方につき	軍事	ha023-017-07	5	
安永6	1	14	手明鐘中村李兵衛病身につき隠居のこと	医学	ha023-017-07	14	
安永6	1	14	久納徳■祖母死去につき富永市祐定式の忌服受申し入れのこと	医学	ha023-017-07	15	
安永6	1	14	手明鐘靴嶋嘉太夫死去につき佐忠次郎より申し入れのこと	医学	ha023-017-07	15	
安永6	1	14	鈴田源蔵忌中の間、杵嶋下目附を田嶋近右衛門に仰せつけられ、早速阿蘭陀通り其外氣遣を申し達せらること	洋学	ha023-017-07	15-16	
安永6	1	18	伊王島番の中沢弥平太他足輕2人、山城殿衆へ交代により昨17日帰着のこと	軍事	ha023-017-07	19	
安永6	1	23	摂津国富田村栗原嘉十下人政助、先頃より病氣のこと	医学	ha023-017-07	20	
安永6	1	23	借銀方御用の摂津国富田村栗原嘉十下人政助、病氣につき看病人をつけ医師にかかること	医学	ha023-017-07	20-21	口達覚
安永6	1	25	栗原嘉十下人政助死去のこと	医学	ha023-017-07	22-23	口達覚含む
安永6	1	25	栗原嘉十御家中の学問師範として芦原屋敷下し置かれるも佐賀表手数難しき故、政助死体神崎町永濱良右衛門へ差し遣わすこと	教育	ha023-017-07	23	
安永6	1	26	栗原嘉平召使政助病下地腫物気の上、正月より風邪にて発熱強く24日に死去のこと	医学	ha023-017-07	25	
安永6	4	1	夜廻盗賊方足輕吉富善右衛門より中村金蔵へ交代のこと	軍事	ha023-017-07	53	
安永6	4	1	夜廻足輕差次中沢太左衛門与足輕田中幸平へ申し付けのこと	軍事	ha023-017-07	53	
安永6	5	12	伊王島御番として大木仁右衛門下番足輕4人明13日より差し越すこと	軍事	ha023-017-07	110	
安永6	5	12	大木仁右衛門伊王島御番のため御側差しはずされること	軍事	ha023-017-07	110	
安永6	5	16	小森平次郎大矢砲術出精稽古において稽古の砲術、今日大門村にて披露につき親類方見物のこと	軍事	ha023-017-07	111	
安永6	5	20	役人古賀安太夫長病の末死去のこと	医学	ha023-017-07	113	
安永6	5	24	小森平次郎大矢砲術出精稽古につき銀二枚拝領のこと	軍事	ha023-017-07	114	
安永6	7	15	明16日北西番御門上番手明鐘兩人ずつ詰めるよう達のこと	軍事	ha023-017-07	146	
安永6	7	18	塩田学寮玄関其外普請成就につき前田仲右衛門へ銭六貫文渡しのこと	教育	ha023-017-07	147	
安永6	7	27	桜田御前様病氣癒養葉わず御逝去のこと	医学	ha023-017-07	154-155	
安永6	8	5	伊王島御番大木仁右衛門足輕3人今朝罷り帰ること	軍事	ha023-017-07	177	
安永6	8	8	副島新左衛門代として御武具方に中野八右衛門仰せ付けのこと	軍事	ha023-017-07	181-182	
安永6	8	9	成富竹甫、渡眼病にて御歩行本格より一等引き下げの件につき吟味のこと	医学	ha023-017-07	186	
安永6	8	13	田原与兵衛、長病の末快氣定まらずに付き、お預かりの鉄砲足輕と差し上げのこと	軍事	ha023-017-07	191	
安永6	8	13	田原与兵衛、養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-07	191-192	
安永6	8	14	成富浦右衛門と長柄鑓の者共渡しの道具、本日御改め御蔵へ納めのこと	軍事	ha023-017-07	193	
安永6	8	14	長柄遣間文右衛門と渡りの道具、栗山五郎兵衛渡りの道具、銘々宅々より御蔵へ納めるよう御達しのこと	軍事	ha023-017-07	193-194	
安永6	8	16	本庄利兵衛、小瘡氣により嬪野にて湯治のこと	医学	ha023-017-07	195	
安永6	8	29	大坂勘定役嶋田三太夫病死のこと	医学	ha023-017-07	201-211	
安永6	9	1	御歩行柴田勘右衛門、江戸詰足輕代として当月中旬より差登りの件、向与藤崎十郎左衛門へ達しのこと	軍事	ha023-017-07	212	
安永6	9	12	彈右衛門儀、頃日より中風を煩い、東御屋敷屯詰お断りのこと	医学	ha023-017-07	222	
安永6	9	14	昨日佐嘉二ノ丸より重番呼出のこと	軍事	ha023-017-07	223	
安永6	9	20	伊王島番善右衛門方与当前につき、牟田卯左衛門差し越しの件、請役所へ達のこと	軍事	ha023-017-07	230	
安永6	9	30	牟田卯左衛門并足輕二人、伊王島番として明日より出立のこと	軍事	ha023-017-07	263	
安永6	10	20	久池井次左衛門、長病の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-07	283	
安永6	10	30	寄合組古賀又之允、長病の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-07	288	
安永6	12	8	村上養玄、外療便毒瘡治切れ者につき、二人扶持下され置く元々役人痛所にて出勤無く御用差支えにつき、当分差次中村甚兵衛へ仰付のこと	医学	ha023-017-07	309-310	
安永6	12	19	中野忠左衛門、山邊日向渡、神道傳校のため上京のこと	教育	ha023-017-07	318	
安永7	1	19	牟田卯左衛門、伊王島御番交代により今日罷り帰ること	軍事	ha023-017-08	18-19	
安永7	2	13	玉井紋右衛門、病氣の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	32	
安永7	2	19	池田次左衛門、長病により快氣定まらず、次男慶竹へ跡立仰付のこと	医学	ha023-017-08	35	
安永7	2	19	池田次左衛門、病氣の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	35	
安永7	2	19	田中四郎大夫祖母死去により用捨の件、組扱勘左衛門お達し失念のこと	医学	ha023-017-08	35-36	
安永7	2	20	江戸表防衛役、御物入多く合力願のこと	軍事	ha023-017-08	37	
安永7	2	20	御歩行江原甚兵衛、江戸において去月27日死去のこと	医学	ha023-017-08	40	
安永7	2	24	龍津寺謙道和尚、先頃より塩田圓明寺罷居るところ、病氣により昨23日死去のこと	医学	ha023-017-08	42	
安永7	3	7	大熊市左衛門、病氣の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	46-47	
安永7	3	23	小嶋伊右衛門娘病氣養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	59	
安永7	4	4	御歩行野中作兵衛、与頭藤崎十郎宅にて相調のこと	軍事	ha023-017-08	70	
安永7	4	6	御歩行野中作兵衛、末次奥右衛門、与頭宅にて相調のこと	軍事	ha023-017-08	70	
安永7	4	7	御歩行末次奥右衛門、慣み筋々お達しのこと	軍事	ha023-017-08	71	
安永7	4	7	御歩行野中作兵衛、慣みには及ばざること	軍事	ha023-017-08	71	
安永7	4	25	玉泉院様今日御庭稽古場へ御出遊ばされ御供中へ酒肴拝領のこと	軍事	ha023-017-08	86	
安永7	4	29	堤文右衛門次男、病氣養生かなわず死去のこと	医学	ha023-017-08	88	
安永7	5	3	樹村形左衛門親空還、急症により今朝死去のこと	医学	ha023-017-08	92	
安永7	5	4	疫病流行につき、転除のため祇園社において大般若二部御祈禱仰せ付けられること	医学	ha023-017-08	93-94	
安永7	5	11	福井次郎兵衛、今日病氣により死去、養子により家統仰せつけられること	医学	ha023-017-08	95-96	

安永7	5	24	魚町の八左衛門、極難により相果てる、自余は右躰の極難者には赤米一俵を御介抱としてくださること	医学	ha023-017-08	105-106	
安永7	6	9	常丸様去々申年より防衛役仰せ蒙られ、大臨時により物入	軍事	ha023-017-08	110-111	口上覚
安永7	6	11	手明鍵吉岡平左衛門、長病の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	112	
安永7	6	11	松崎次郎右衛門、江戸差越しの件、身病近目につきお断り	医学	ha023-017-08	112	
安永7	6	12	今晚より明晩まで祇園会につき例年の通り警固差し出される	軍事	ha023-017-08	113	
安永7	6	28	御歩行湯下大郎次、江戸差越し仰せつけられるも、病身により歩行も叶わず、差し免じられること	医学	ha023-017-08	118	
安永7	7	1	手男七兵衛、長病の末去三日死去のこと	医学	ha023-017-08	129	
安永7	7	11	齋藤忠平、江戸御屋敷手男数年詰め、勤方宜しく足軽格に召し成されること	軍事	ha023-017-08	142	
安永7	7	13	来る十六日、北西番御門手明鍵より上番勤めるよう相談人より達しのこと	軍事	ha023-017-08	143	
安永7	7	18	数姫様より大弘院様への御焼穂、小城番より軍番中野忠左衛門まで申し聞かせられること	軍事	ha023-017-08	144	
安永7	7	19	去々年より防衛役仰せつけられ入増につき、金子千両御取替願ひのこと	軍事	ha023-017-08	144-146	
安永7	7	29	伊王島番として明朔日より本庄諸左衛門、足軽境井三郎右衛門、山田幸太左衛門出立のこと	軍事	ha023-017-08	150	
安永7	閏7	6	手明鍵吉田権右衛門、長病の末養生叶わず昨夕相果てること	医学	ha023-017-08	155	
安永7	閏7	12	新助妻今晚安産、産穢につき月番交代のこと	医学	ha023-017-08	157	
安永7	閏7	15	婿野又六郎弟平馬、目明シ清左衛門・足軽により昨夜捕らえらること	軍事	ha023-017-08	158	
安永7	閏7	27	塩田町分利左衛門、突所居籠の番人として、明朝より警固足軽一人差越すこと	軍事	ha023-017-08	166	
安永7	閏7	29	手明鍵前田伸右衛門、御勝手方附役仰せつけられること	軍事	ha023-017-08	169	
安永7	8	10	副島新左衛門、長病の末養生叶わず今朝死去のこと	医学	ha023-017-08	184	
安永7	8	20	東弾右衛門、長病の末快気定まらず、願ひの通り養子仰せ付け下さるよう御願ひのこと	医学	ha023-017-08	192	
安永7	8	20	東弾右衛門、養生叶わず今夜死去のこと	医学	ha023-017-08	193	
安永7	9	6	古賀孫右衛門倅貞八、病気の末養生かなわず今六日朝死去のこと	医学	ha023-017-08	201	
安永7	9	12	八谷九兵衛、長病の末養生叶わず昨十一日死去のこと	医学	ha023-017-08	210-211	
安永7	9	21	柴田次郎兵衛、長病の末養生叶わず、昨二十日夜死去のこと	医学	ha023-017-08	216	
安永7	9	26	尾張中納言様御簾中様、去月二十八日御卒去のこと	医学	ha023-017-08	221	
安永7	9	30	玉泉院様、頃日より御不快につき御式台番にて御機嫌伺ひ	医学	ha023-017-08	224	
安永7	10	5	当春入学のため上京、拝借銀叶わずにつき入学延引のこと	教育	ha023-017-08	231	
安永7	10	8	玉泉院様、頃日より御不快につき御医師遣わずこと	医学	ha023-017-08	235	
安永7	10	9	玉泉院様医師、東御屋敷手狭のため表御屋形へ罷り出につき、取次人詰めお達しのこと	医学	ha023-017-08	236	
安永7	10	9	玉泉院様容体、江戸へ急便をもって御注進のこと	医学	ha023-017-08	240	
安永7	10	17	御歩行湯下戸右衛門、検者役数年宜しく勤めにより手明鍵格仰せつけられること	軍事	ha023-017-08	247	
安永7	10	17	玉泉院様、御不快につき医師花房良庵朝鮮人参を進ぜること	医学	ha023-017-08	247	
安永7	10	18	玉泉院様、御病氣お尋ねにつき医師を遣わずこと	医学	ha023-017-08	248	
安永7	10	26	中地筋筋病流行につき転除の御祈禱仰せ付けのこと	医学	ha023-017-08	251	
安永7	10	30	玉泉院様御病氣の件につき、初川玄養へお達しのこと	医学	ha023-017-08	255-256	
安永7	11	3	痘瘡流行につき御家中並びに郷津町へ切札くださること	医学	ha023-017-08	259-230	
安永7	11	5	玉泉院様御病氣、昨夕より御浮腫増し医師差し越すこと	医学	ha023-017-08	260	
安永7	11	6	玉泉院様御病氣祈禱につき金子五百両差渡しのこと	医学	ha023-017-08	261	
安永7	11	6	玉泉院様お薬、佐賀医師より差し上げること	医学	ha023-017-08	262	
安永7	11	8	玉泉院様お薬、西岡春益差し上げられること	医学	ha023-017-08	267	
安永7	11	22	大園次兵衛、病氣にて養生叶わず昨夜死去のこと	医学	ha023-017-08	285	
安永7	11	22	津田善右衛門、長病の末養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-08	285	
安永7	11	25	痘瘡流行祈禱につき勝光院へ金子三百両渡しのこと	医学	ha023-017-08	287	
安永7	12	1	玉泉院様御病氣につき丹州様御見舞のこと	医学	ha023-017-08	293	
安永7	12	1	玉泉院様御病氣につき、花房良治・江上友益・紀伊春沢・馬渡高雪差し越すこと	医学	ha023-017-08	294	
安永7	12	5	中島甚兵衛娘、今曉死去により甚兵衛父子忌中のこと	医学	ha023-017-08	296	
安永7	12	7	鶴尾平左衛門娘痘瘡により死去のこと	医学	ha023-017-08	297	
安永7	12	8	御歩行中尾幸次郎、足軽代にて江戸詰めのところ、去月13日死去のこと	医学	ha023-017-08	299	
安永7	12	10	防衛役御勤続につき佐賀へ御助力金仰せ入れのこと	軍事	ha023-017-08	300	
安永7	12	12	玉泉院様御容体大切につき、御機嫌伺ひ式台番にて帳付けのこと	医学	ha023-017-08	304	
安永7	12	13	玉泉院様容体昨夜より御不勝、食事熱眠なきこと	医学	ha023-017-08	305	
安永7	12	13	江戸大坂へ御病氣御大切の趣佐賀便にて注進のこと	医学	ha023-017-08	305	
安永7	12	13	御病氣御大切の段、聞番より所々へ相達すこと	医学	ha023-017-08	305-306	
安永7	12	13	濡川口市左衛門極難者のところ、家内に痘瘡人あり飢えたるにつき、御合力銭を貴文くださること	医学	ha023-017-08	306	
安永7	12	13	玉泉院様御病体御病苦につき、御転除のため徳恩寺へ祈念仰せつけのこと	医学	ha023-017-08	306	
安永7	12	14	御式台聞次加番、西岡弥左衛門家内痘瘡につき、和田惣十郎へ仰せつけのこと	医学	ha023-017-08	309-310	
安永7	12	18	富永七右衛門、牢人申し付けのところ武芸稽古方親切心懸けにつき今般帰参のこと	軍事	ha023-017-08	321	
安永7	12	19	齋藤吉兵衛末娘痘瘡により死去のこと	医学	ha023-017-08	322	
安永7	12	24	巨勢善五左衛門長病につき、家督を武十郎に譲り死去のこと	医学	ha023-017-08	325-326	
安永7	12	25	玉泉院様御病氣御大切につき去る十三日より組々より一人ずつ御式台昼夜詰仰せ付けのこと	医学	ha023-017-08	326	
安永7	12	25	本町五兵衛極難者のところ、老母煩い子供痘瘡につき吟味により銭を貴文拝領させらること	医学	ha023-017-08	326	
安永8	1	7	多久家来尾形新三郎、塩田学寮へ参り学文師範太儀につき金子三百足拝領のこと	教育	ha023-017-09	17	
安永8	1	8	谷口太郎右衛門、長病の末昨日死去のこと	医学	ha023-017-09	19	
安永8	2	4	本庄諸左衛門、伊王島御番として彼地罷り越し、正月二十三日に交代今日罷帰ること	軍事	ha023-017-09	52-53	

安永8	2	22	玉泉院様、昨夜から今朝の御容体聞番中野忠左衛門より差出しのこと	医学	ha023-017-09	63-64
安永8	2	22	寄合与中嶋市右衛門病氣差し重く、跡式願の通り貞次郎へ仰付らるよう請役所へ差出しのこと	医学	ha023-017-09	64
安永8	2	22	中嶋市右衛門、養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-09	64
安永8	3	3	中澤太郎右衛門支配足輕中嶋袈裟次郎、今度高嶋六右衛門与へ仰付けらるること	軍事	ha023-017-09	68
安永8	3	4	大塚次平太妻病氣のところ、養生叶わず去月晦日晚死去のこと	医学	ha023-017-09	69-70
安永8	3	7	水野与右衛門叔父、長病の末死去のこと	医学	ha023-017-09	71-72
安永8	3	9	桃岳庵に盗人入り、盜賊方足輕目明しにより城原町にて召捕えたること	軍事	ha023-017-09	72-73
安永8	3	13	玉泉院様御病氣お尋ねとして丹州様より御使者川瀬孫之丞遣わされること	医学	ha023-017-09	75
安永8	3	14	玉泉院様、病氣御養生叶わず御卒去のこと	医学	ha023-017-09	80
安永8	3	25	加賀守様御病氣につき四月中御参勤お改めのこと	医学	ha023-017-09	106
安永8	3	27	佐嘉文武方より武芸内見につき富永市佑弟子内名書差出す様触達のこと	教育	ha023-017-09	112-113
安永8	4	22	長崎御用達井手悦次郎より、伊王島番本庄諸左衛門より借用銀子催促のこと	軍事	ha023-017-09	135-136
安永8	4	23	手明鐘横手傳右衛門、病氣の未養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-09	136
安永8	4	24	藤瀬清右衛門、先頃より病氣につき跡式の儀伝蔵へ仰せつけ下さるよう請役所へ達し	医学	ha023-017-09	138-139
安永8	4	24	藤瀬清右衛門、養生叶わず死去のこと	医学	ha023-017-09	139